

NHKニッパツ

日本発条株式会社

「ものづくり」で支える未来の社会

# ニッパツレポート | 2018

社会・環境・財務報告書 2017.4~2018.3

# 持続可能な社会の発展に貢献できる 魅力ある企業集団の実現を目指します



代表取締役社長

茅本 隆司

代表取締役会長

玉村 和己

平素より当社グループの活動にご支援いただいております株主、投資家、お客様、取引先、地域の皆様など、当社を取り巻く多くのステークホルダーの皆様の温かいご支援に、深く感謝いたします。

日本経済は、企業収益の改善や株高、雇用環境の改善を背景に緩やかに回復しました。世界経済につきましては、米国では個人消費や設備投資が増加傾向にあり景気拡大が継続しました。アジア地域においては、中国では輸出の持ち直しや経済政策の効果により景気は緩やかな成長が続き、タイやインドでも景気の回復がみられました。

当社グループは、主要な事業分野であります自動車関連および情報機器関連製品をグローバルに供給していることから、世界的な景気変動に強く影響されます。米国の通商政策による影響が、欧州や中国に与える懸念もあります。加えて為替相場の動向、原材料の価格変動などにも十分な注意が必要になるとともに、供給元の不慮の事故や予想を超える規模の自然災害などにより原材料や部品の不足が生じることへの対応準備もしていかなければなりません。

このように取り巻く環境には様々なリスクと景気の先行き不透明感がありますが、当社グループでは企業理念を経営の基本方針として、常にお客様に魅力ある商品・サービスを提供して健全な成長を図ることにより、ステークホルダーの皆様から常にベスト

社訓	企業理念	私たちは「社訓の精神で、 「企業理念」に則った 事業活動を遂行し、 「ものづくり」で 社会に貢献します。
躍進のニッパツ	グローバルな視野に立ち	
根性のニッパツ	常に新しい考え方と行動で	
みんなのニッパツ	企業の成長をめざすと共に 魅力ある企業集団の実現を通じて 豊かな社会の発展に貢献する	

と認められる企業集団を目指しています。

当社は自動車部品で培った「ばねの挙動解析」「金属材料のノウハウ」「金属の熱処理と塑性加工技術」に、情報通信部品分野における「精密・微細加工技術」などの新しいコアコンピタンスを加えた次世代技術を駆使し、自動車および情報通信分野へ多くのキーパーツを提供することを強みとし、企業の永続と企業価値を最大化することを目標としています。2018年4月に新設した「電動化事業推進室」は、100年に一度といわれるクルマ社会の変化の中で、当社の持つ固有の技術や強みを生かせる組織として位置づけています。次世代を担う製品開発に果敢にチャレンジして、新しい技術と商品を創出し、「技術のニッパツ」と言われ続けていきたいと考えています。

今後も顧客対応力に優れたグローバルサプライヤーとしての確固たる地位を築くと同時に、すべてのステークホルダーの方々と良好な関係を維持・向上できるよう努めていきます。

当社グループでは、2020年度を最終年度とする中期経営計画「2020中計」を2017年度にスタートさせました。この「2020中計」では、既存拠点の収益向上と海外拠点の充実、現製品の拡販による売上増により、新製品・新拠点に対する積極的な設備投資を継続しつつ、最高益の更新を目標とします。

中期経営計画「2020中計」目標値			
売上高・損益目標		財務指標目標	
●売上高	7,100億円	●経常利益率	8%以上
●営業利益	540億円(利益率7.6%)	●ROE	10%以上
●経常利益	570億円(利益率8.0%)	●配当性向	30%程度を目指す
●当期純利益	380億円(利益率5.4%)		

2020中期経営計画 事業戦略		
<b>① 拡販を目指した競争力の強化</b> 拡販目標の 着実な達成へ向けて ●設計開発力の強化とスピードアップ ●グローバル営業力の強化 ●一層の原価低減の推進	<b>② 新製品の開発・新事業の開拓</b> 顧客に選ばれるものづくり ●より競争力ある製品の開発と事業化の推進 ●次世代を担う新製品の開発 ●生産技術のさらなる深耕	<b>③ CSR活動の推進</b> ステークホルダーに 信頼され続ける企業 ●コンプライアンスを重視した透明性の高い経営の実施 ●働き方改革の推進 ●計画的な人材の育成・確保と、ダイバーシティの推進

ところで、100年続く企業の3割は日本の企業といわれています。会社が長く生き続けるのは、社会に必要とされているからです。当社も来年は、一つの節目となる創立80周年を迎えることとなります。さらにその先の100年企業を目指していくには、すべてのステークホルダーの皆様からの信頼を得ていかなければなりません。そのためには、当社グループの中長期の企業価値の向上を図るとともに、企業統治の強化と積極的な情報開示の推進、地球環境問題への取り組み強化、人材のダイバーシティの推進、地域社会との共生などの社会問題の解決にも、積極的に取り組み、持続可能な社会に貢献していきたいと考えます。

この報告書を通じて、当社グループが果たすべき社会的責任について、私たちの考えと活動の一端をご理解いただければと考えています。今後の活動に向け、皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## CONTENTS

トップコミットメント	2	ニッパツグループファイル
事業概要	4	
ニッパツグループが社会に提供する価値	6	
財務ハイライト2017	8	
事業活動ハイライト2017	12	
グローバル・グループネットワーク	14	
ニッパツグループのCSRの考え方	16	CSRマネジメント報告
コーポレート・ガバナンス	17	
コンプライアンス/リスクマネジメント	18	
お客様	20	社会性報告
株主・投資家	21	
従業員	22	
取引先	25	
地域社会	26	
環境マネジメント	29	環境報告
環境パフォーマンス	32	

※「事業活動とライフサイクルフロー」「ISO14001への対応」「環境会計」「環境負荷物質の管理と削減」については、今年度より【環境データ集】へ移行し、ホームページに掲載しています。  
<https://www.nhkspg.co.jp/csr/env/index.html>

# ニッパツは、ばねの特性を生かした高い技術力で、自動車を中心とした「ものづくり」に貢献し、社会に様々な価値を提供します。



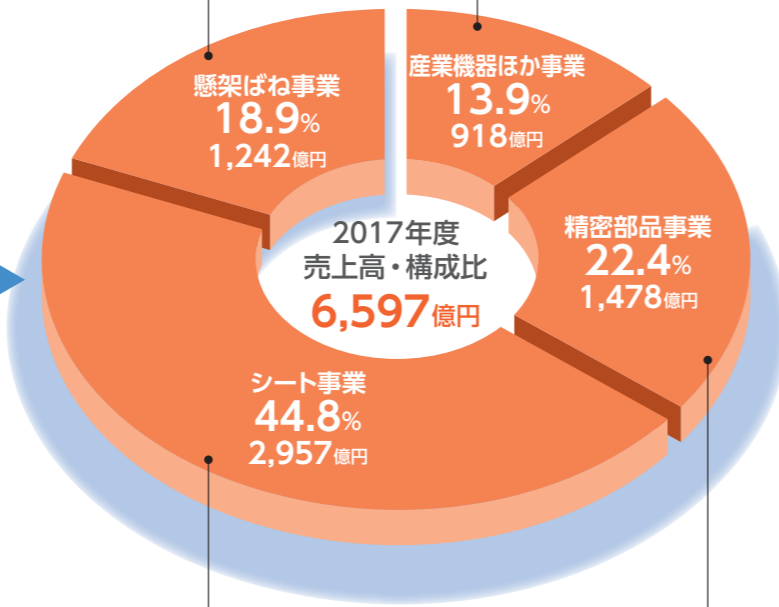
## 自動車分野

自動車の「安全」「環境保全」「快適」「高機能」のためのキーパーツを提供しています。



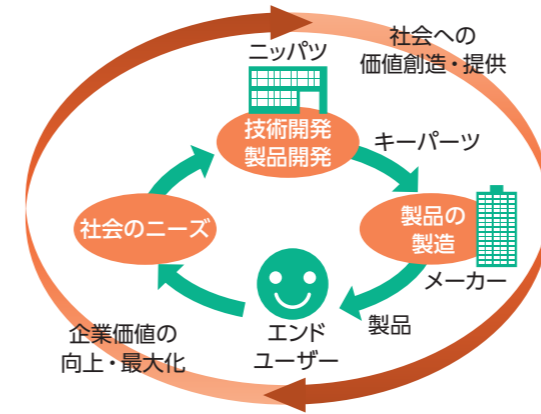
- コイルばね、スタビライザ、板ばねなどの懸架ばね
- シート/シート用機構部品/内装品
- 線ばね/薄板ばね/精密加工品
- ポリウレタン製品
- モーターコア
- 金属ベースプリント配線板

- コイルばね
- スタビライザ
- 板ばね
- トーションバー
- スタビライザリンク
- ペローズ
- スタビリンカーほか
- ろう付製品
- セラミック製品
- ばね機構品
- 配管支持装置
- 駐車装置
- ポリウレタン製品
- 金属ベースプリント配線板
- セキュリティ製品
- 照明器具
- ゴルフシャフトほか



- HDD用サスペンション
- HDD用機構部品
- 線ばね
- 薄板ばね
- モーターコア
- 液晶・半導体検査用プローブユニット
- ファスナー(ねじ)
- 精密加工品ほか
- 自動車用シート
- シート用機構部品
- 内装品ほか

## ニッパツグループが社会に提供する価値 P06



ニッパツは、ものづくりに欠かせないキーパーツを生み出し、社会に価値を提供しています。そして、社会のニーズに応えることで、企業価値の向上・最大化を図ります。



## 情報通信分野

最先端のテクノロジーで「高精度」「高機能」の製品を提供しています。



- HDD用サスペンション、HDD用機構部品
- 線ばね/薄板ばね
- 液晶・半導体検査用プローブユニット
- 精密加工品
- セラミック製品
- ろう付製品
- 金属ベースプリント配線板
- ポリウレタン製品



## 産業・生活分野

「便利」「快適」をはじめ、社会に役立つ信頼性の高い製品を提供しています。



- 駐車装置
- 配管支持装置
- ガススプリング
- ポリウレタン製品
- ばね機構品
- セキュリティ製品

## ニッパツ会社概要

会社概要(2018年3月31日現在)

商号 日本発条株式会社  
 創立 1939年(昭和14年)9月  
 資本金 170億957万円  
 従業員数 4,973名(単独) 20,834名(連結)  
※臨時従業員の年間平均雇用人員を含む

売上高 6,597億円(2017年度、連結)  
 本社 〒236-0004

事業部 ばね生産本部、シート生産本部、精密ばね生産本部、DDS生産本部、産機事業本部

工場 横浜工場(ばね/シート)、滋賀工場、群馬工場、豊田工場、厚木工場、伊那工場、駒ヶ根工場(DDS/産機)、伊勢原第一・第二工場、宮田工場、野洲工場

分館 横浜みなとみらい分館  
 支店・営業所 北関東支店、浜松支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡営業所  
 上場 東証第一部(コード5991)  
 グループ会社 国内24社、海外35社

## 株式の状況(2018年3月31日現在)

発行可能株式総数 600,000,000株  
 発行済株式総数 244,066,144株  
 株主総数 10,886名

株価推移	高値	安値
2017年4月~6月	1,295	1,151
2017年7月~9月	1,243	1,066
2017年10月~12月	1,353	1,199
2018年1月~3月	1,276	1,002

(円)

## 役員一覧(2018年6月27日現在)

### 取締役・監査役

代表取締役会長 玉村 和己	社外取締役 田中 克子
代表取締役社長 茅本 隆司	常勤監査役 清水 健二
代表取締役副社長 嘉戸 廣之	常勤監査役 平間 恒彦
取締役専務執行役員 杉山 徹	社外監査役 小森 晋
取締役常務執行役員 上村 和久	社外監査役 立花 一人
社外取締役 末 啓一郎	

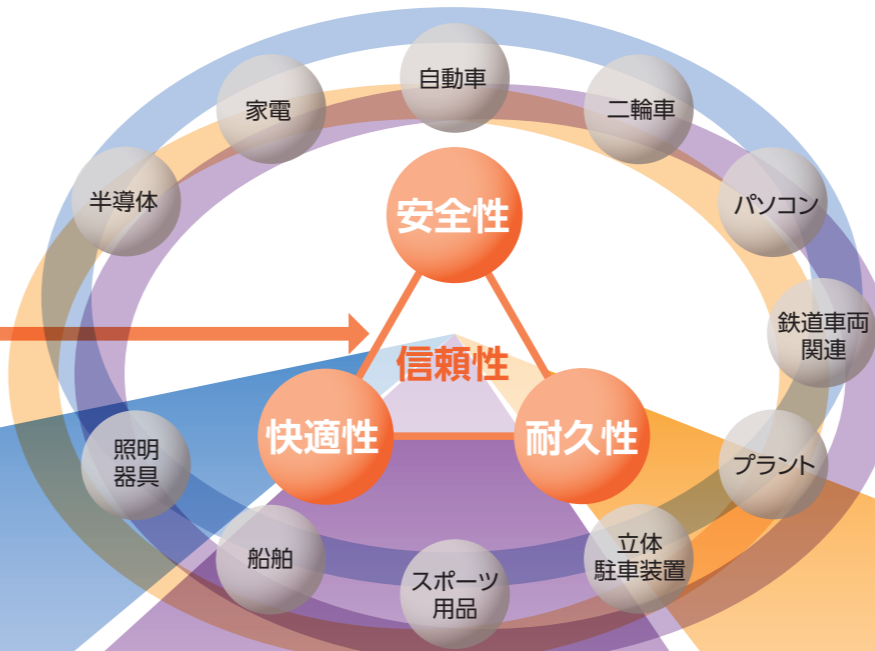
### 執行役員(取締役兼務者を除く)

専務執行役員 梅村 太郎	執行役員 小野 達朗
専務執行役員 柴田 柳一	執行役員 大河原隆広
専務執行役員 風間 俊男	執行役員 青柳 俊之
専務執行役員 貫名 清彦	執行役員 関 幸裕
常務執行役員 星野 秀一	執行役員 鈴木 潤一
常務執行役員 榎本 英人	執行役員 立川 俊洋
常務執行役員 増田 耕	執行役員 澁谷 祐司
常務執行役員 大竹 一彦	執行役員 新藤 芳之
常務執行役員 杉浦 啓修	執行役員 堀江 雅之
常務執行役員 吉村 秀文	執行役員 梅野 純
常務執行役員 尾山 二郎	執行役員 一杉 守宏
常務執行役員 藤原 哲哉	執行役員 池尻 修
常務執行役員 佐伯 俊則	執行役員 岡島 創
執行役員 高村 典利	執行役員 佐々木俊輔

# ニッパツグループが社会に提供する価値

ばねの特性を生かした製品を中心に、自動車、情報通信、産業・生活といった幅広い分野のキーパーツを生み出すニッパツ。私たちの「ものづくり」を通じた社会への貢献性を、世の中に提供する「価値」を軸に、様々な製品をご紹介します。

金属の熱処理技術と塑性加工技術 + ばねのコア技術・解析



## 自動車分野

### 自動車用懸架ばね

コイルばねは、路面からの振動や衝撃を吸収します。スタビライザは、コーナリングや車線変更時に自動車の傾きを抑えます。板ばねは、乗り心地向上と操縦安定性を両立させます。省スペース化や軽量化を図るなど、クルマの低燃費化に貢献しています。



### 自動車用シート

優れた快適性と高い安全性が求められる自動車用シートを、開発・設計から組立まで一貫生産しています。デザインはもちろん耐久性や乗り心地など、独自の厳しいテスト項目を設け、ユーザーに理想のシートを提供しています。



### バルブスプリング

材料や加工方法の開発により、耐久性、耐熱性の向上を図っています。高回転のエンジンを支える信頼性の高い製品です。



### アークスプリング

円弧状のスペースにストロークの長いばねを配置できます。自動車のAT/MTクラッチダンパーの低剛性とねじり角拡大を実現し、振動や燃費の改善に貢献しています。



### 皿ばね

小さなスペースで大きい荷重を受けられるため、自動車のCVT/ATミッションなどに使用されています。



## 情報通信分野

### HDDサスペンションと機構部品

パソコンや家電製品に使われるHDDの磁気ヘッドを支えているのがサスペンションです。またHDDの小型化、高速化、大容量化に対応するHDD機構部品は、世界の高い信頼を集めています。



### 半導体製造装置用部品

半導体製造装置に使用されるヒーターユニット、冷却ユニットや、これらを一体化した静電チャックなどの高性能な製品を提供しています。



### スーパーシール/スーパーシート

防水、気密、吸音、緩衝などの用途に使用される特殊発泡ポリウレタン製品です。自動車、電機、建築、土木など幅広い分野で使われ、低圧縮でも安定性を保ち、復元性にも優れています。



## 産業・生活分野

### 機械式立体駐車装置

パレットを上下左右に動かす仕組みにばねの技術と金属加工技術を生かしています。駐車スペースの確保が社会問題となる中で、土地の有効活用を実現します。



### 配管支持装置

プラントや油空圧の機器の振動や騒音防止などに使用され、設備や施設の安全を支えています。



### テンションバランス

鉄道のパンタグラフに電気を供給する架線の伸び縮みを吸収し、常に一定の張力を持つ役割を担い、車両の安全走行を支えています。



### ゴルフシャフト (日本シャフト)

軽量スチールシャフトといえば「N.S.PRO」。世界が絶賛したコントロール性能と飛距離で世界的ブランドとなっています。



### 偽造防止ラベル「トラストグラム」

家電製品、パソコン用サプライ製品、自動車部品、スポーツ用品などのブランドを偽物から保護するためのラベルシールです。



### マリンプロダクト (ニッパツ・メック)

高い信頼性を誇る製品を、マリ業界の様々な分野へ提供しています。



## TOPICS 電動車向け製品開発に注力

2018年4月、ニッパツは社長直轄組織として「電動化事業推進室」を設置しました。自動車の電動化が進む中で、ニッパツのコア技術や強みを生かし、電動車向け新製品の開発に力を入れていくためです。手始めに、モーターコアや金属ベースプリント配線板を電動車全般に向けて製造拡大し、今後さらなる製品の研究・開発に力を入れていきます。

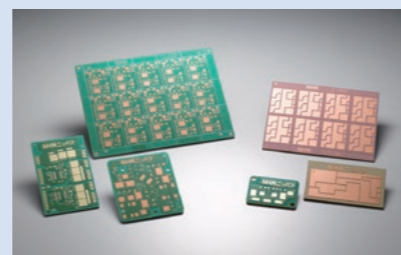
### モーターコア

EV/HEV向けの駆動モーター用コアです。モーターの回転部(ローター)、固定部(ステーター)の磁石の鉄芯となります。高精度なプレス加工技術が必要とされる製品です。



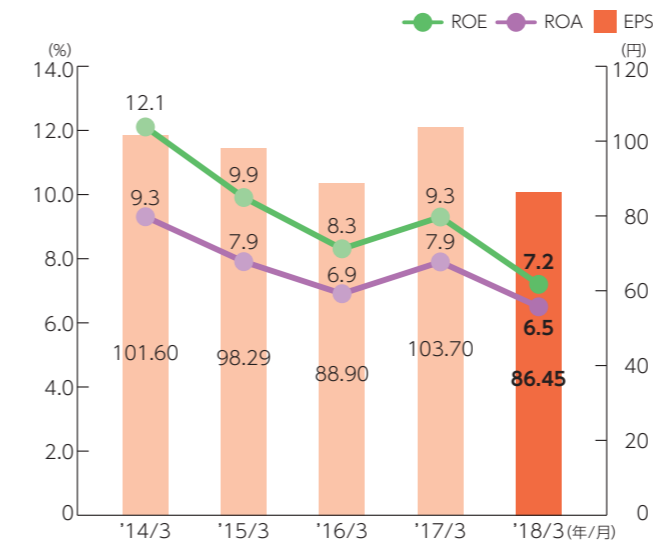
### 金属ベースプリント配線板

アルミなどの金属と高熱伝導性の絶縁材料を組み合わせ、放熱性に優れています。電子デバイスを熱から守り、機器の信頼性向上と小型化に役立っています。

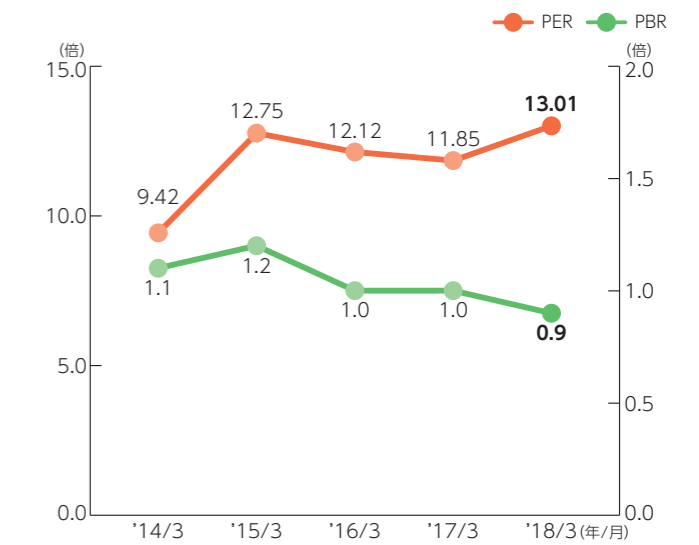


経営成績	決算期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高	(百万円)	569,711	601,434	640,516	626,950	<b>659,730</b>
営業利益	(百万円)	37,480	32,702	35,041	40,613	<b>35,541</b>
売上高営業利益率	(%)	6.6	5.4	5.5	6.5	<b>5.4</b>
経常利益	(百万円)	41,436	39,075	36,111	41,640	<b>36,421</b>
売上高経常利益率	(%)	7.3	6.5	5.6	6.6	<b>5.5</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	24,677	23,873	21,592	25,098	<b>20,495</b>
売上高当期純利益率	(%)	4.3	4.0	3.4	4.0	<b>3.1</b>
<b>収益性</b>						
ROE(自己資本利益率)	(%)	12.1	9.9	8.3	9.3	<b>7.2</b>
ROA(総資産経常利益率)	(%)	9.3	7.9	6.9	7.9	<b>6.5</b>
EPS(1株当たり当期純利益)	(円)	101.60	98.29	88.90	103.70	<b>86.45</b>
PER(株価収益率)	(倍)	9.42	12.75	12.12	11.85	<b>13.01</b>
PBR(株価純資産倍率)	(倍)	1.1	1.2	1.0	1.0	<b>0.9</b>
<b>財政状態</b>						
総資産	(百万円)	464,972	529,899	509,810	541,741	<b>572,579</b>
自己資本	(百万円)	218,269	262,654	257,243	279,699	<b>292,836</b>
自己資本比率	(%)	46.9	49.6	50.5	51.6	<b>51.1</b>
設備投資	(百万円)	20,713	20,671	27,392	25,637	<b>34,010</b>
減価償却費	(百万円)	21,042	21,448	23,582	23,137	<b>24,141</b>
研究開発費	(百万円)	13,803	15,702	16,328	16,130	<b>16,119</b>
売上高比率	(%)	2.4	2.6	2.5	2.6	<b>2.4</b>
<b>株主還元</b>						
配当金	(円)	20	20	22	23	<b>23</b>
配当性向	(%)	19.7	20.3	24.7	22.2	<b>26.6</b>
<b>キャッシュ・フロー</b>						
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	43,798	44,858	42,674	55,664	<b>49,811</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△27,914	△24,433	△35,127	△27,753	<b>△32,955</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△16,200	△5,264	△13,672	△16,916	<b>△5,960</b>
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	61,993	83,439	72,238	82,493	<b>95,007</b>

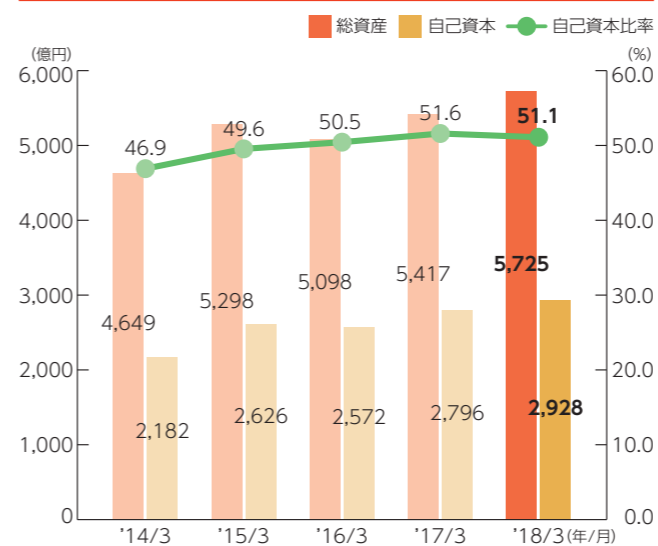
収益性 (ROE/ROA/EPS)



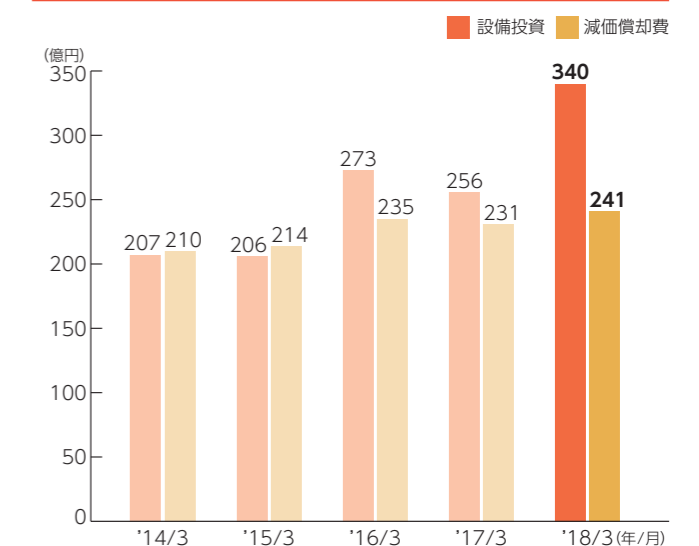
収益性 (PER/PBR)



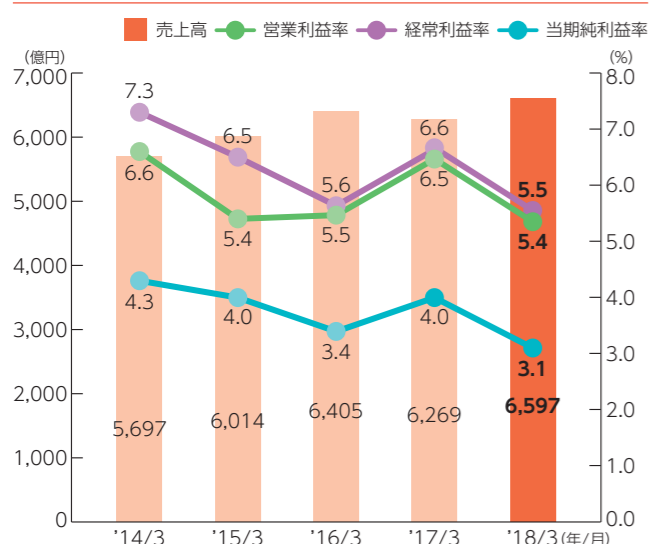
財政状態



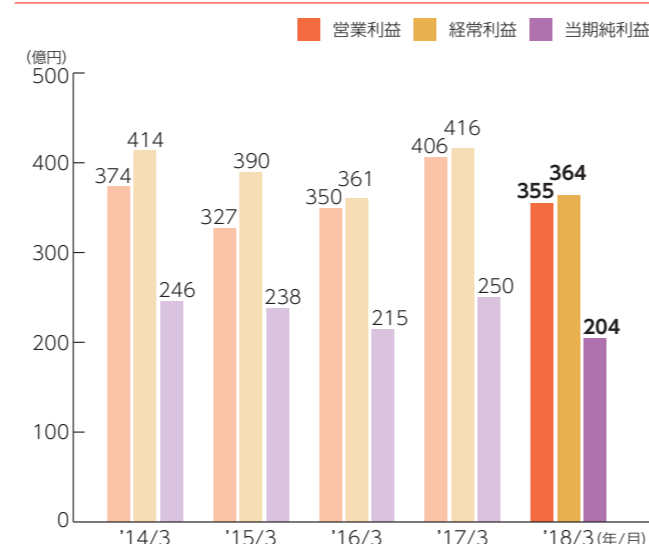
設備投資/減価償却費



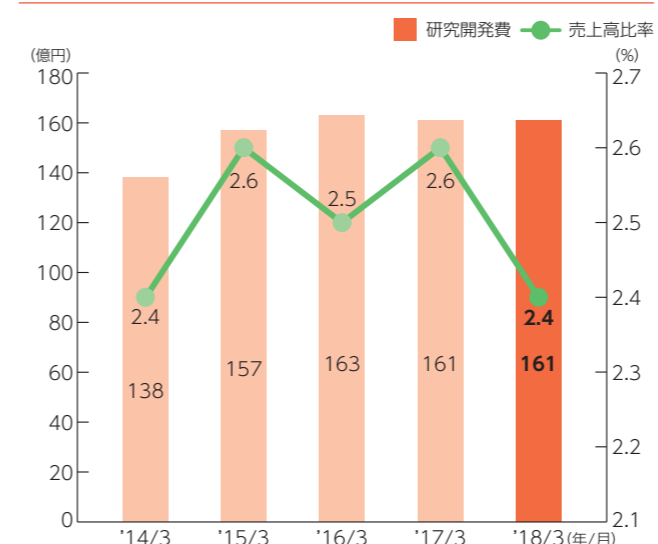
売上高



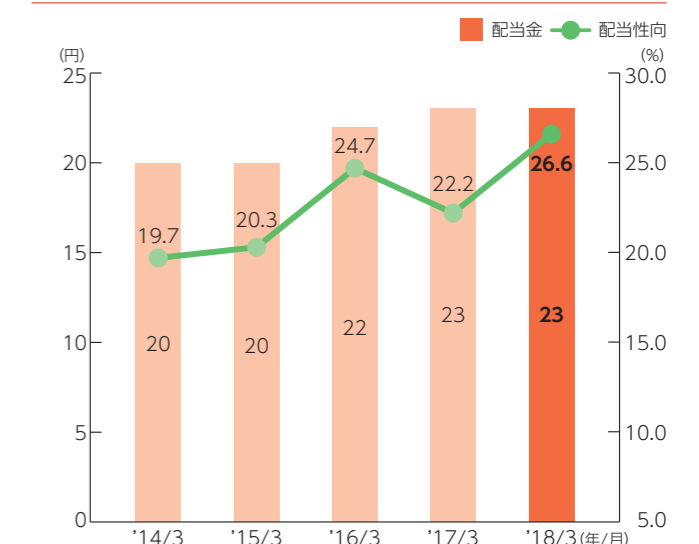
営業利益/経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益



研究開発費



株主還元



## 2017年度の経営成績

2017年度における日本経済は、企業収益の改善や株高、雇用環境の改善を背景に緩やかに回復しました。

世界経済につきましては、米国では個人消費や設備投資が増加傾向にあり、景気拡大が継続しました。アジア地域においては、中国では輸出の持ち直しや経済政策の効果により景気は緩やかな成長が続き、タイやインドでも景気の回復がみられました。

当社グループの主要な事業分野であります自動車関連市場において、国内販売は、登録車は昨秋に発覚した無資格検査問題もあり前年割れとなりましたが、軽自動車は新車投入効果などにより増加したことから、5,197千台で前期比2.3%の増加となりました。完成車輸出は、4,786千台で前期比3.2%の増加となりました。国内の自動車生産台数は、9,676千台で前期比3.4%の増加となりました。

また、もう一方の主要な事業分野であります情報通信関連市場は、データセンター向けは堅調なもののパソコン向けが減少したことにより、HDD（ハードディスクドライブ）の受注は前期比で減少しました。

以上のような経営環境のもと、売上高は659,730百万円(前期比5.2%増)、営業利益は35,541百万円(前期比12.5%減)、経常利益は36,421百万円(前期比12.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は20,495百万円(前期比18.3%減)となりました。

## 2017年度の財政状態

2017年度末の総資産は、現金および預金や有形固定資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ30,838百万円増加し、572,579百万円となりました。

負債については、支払手形および買掛金や長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ15,966百万円増加し、264,930百万円となりました。

純資産については、親会社株主に帰属する当期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ14,871百万円増加し、307,648百万円となりました。

期純利益の減少および法人税などの支払額の増加によるものです。

投資活動の結果支出した資金は、32,955百万円と前期と比べ5,202百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出の増加によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、5,960百万円の支出超過となり、前期と比べ10,955百万円の支出減少となりました。これは主に普通社債の償還および自己株式の取得による支出がなかったことによるものです。

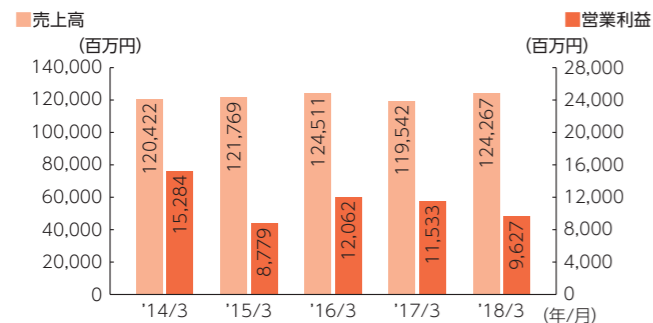
営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを差し引いたフリー・キャッシュ・フローは16,856百万円となりました。

以上の結果、当期における現金および現金同等物は前期末に比べ12,513百万円増加し、95,007百万円となりました。また、社債、コマーシャル・ペーパーおよび長期・短期借入金は53,283百万円と前期末に比べて107百万円減少しました。

## 2017年度の事業別セグメント概況

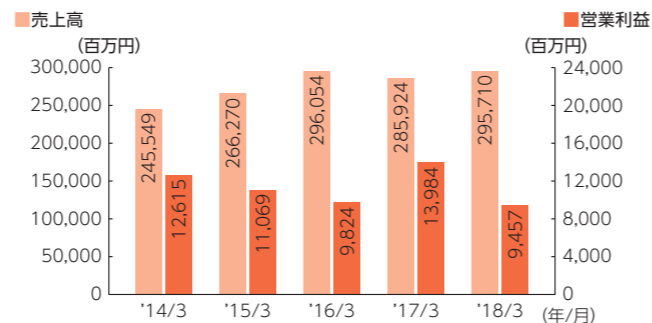
### 【懸架ばね事業】

懸架ばね事業は、売上高は124,267百万円(前期比4.0%増)となりました。営業利益は、9,627百万円(前期比16.5%減)となりました。



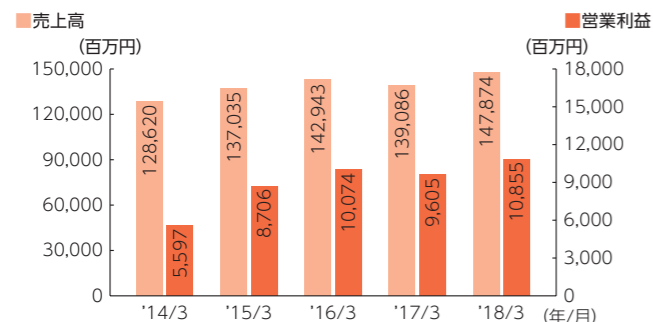
### 【シート事業】

シート事業は自動車生産台数の増加などにより、売上高は295,710百万円(前期比3.4%増)となりました。営業利益は、受注車種構成の変化などにより、9,457百万円(前期比32.4%減)となりました。



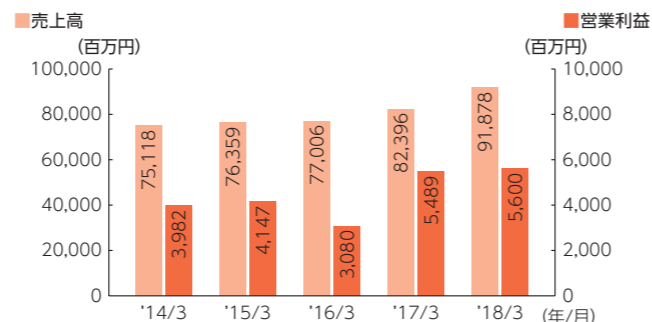
### 【精密部品事業】

精密部品事業は受注製品の数量増や合理化などにより、売上高は147,874百万円(前期比6.3%増)、営業利益は10,855百万円(前期比13.0%増)となりました。



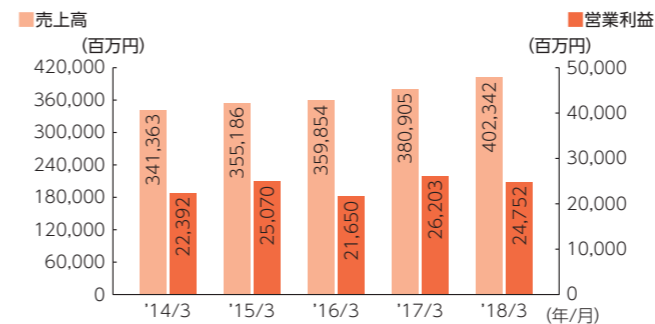
### 【産業機器ほか事業】

産業機器ほか事業は、売上高は91,878百万円(前期比11.5%増)、営業利益は5,600百万円(前期比2.0%増)となりました。

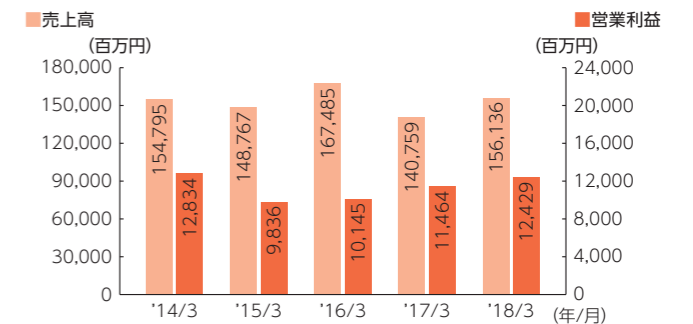


## (参考)所在地別セグメント概況

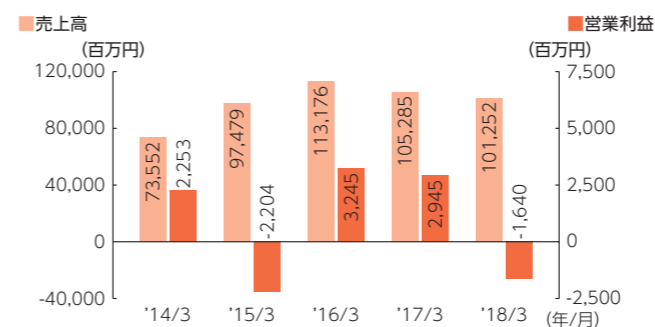
### 【日本】



### 【アジア】



### 【北米ほか】



## 国内事業の積極展開

当社はグループ各社とともに、新たな生産拠点を設けるなど、さらに積極的な事業展開を進めています。

### 東北日発、奥州工場を新設

東北日発は岩手県奥州市に奥州工場を新設し、2017年12月から稼働を開始しました。同社が生産する自動車用シートフレームのプレス部品を外注していた企業が事業撤退することを受け、工場を新設して部品の内製化を図ったものです。12月18日にはニッパツの澁谷執行役員、東北日発の千野社長、奥州市の小沢市長、岩手県商工労働観光部の戸室室長が出席して工場立地調印式が行われました。



奥州市役所で行われた工場立地調印式

### ニッパツ水島を新設、稼働開始

2017年7月、岡山県倉敷市にニッパツ水島を新設し、2018年1月から地元企業の工場・設備を賃借して、三菱自動車より受注した自動車用シートの生産を開始しました。同社は現在、三菱自動車水島製作所内に新たな生産ラインの設置を進めており、今後順次、生産を移管させていく予定です。



生産を開始したニッパツ水島

### 産機・宮田工場、安全祈願祭

2018年1月22日、長野県上伊那郡宮田村の工場新設予定地で、産機事業本部宮田工場新設に向けた安全祈願祭を行いました。宮田工場は、化成部品第二工場の敷地に新設するもので、伊勢原工場で生産している接合・セラミック部の半導体製造装置用部品の第2拠点となります。増産対応が急がれることから、建屋の一部と設備が整い次第、生産を開始し、順次、工場を完成させていく予定です。



神事式で行われた安全祈願祭

### 伊那、第12工場の安全祈願祭

2018年3月、長野県伊那市の工場新設地で、伊那工場が第12工場の新設に向けて、安全祈願祭を行いました。当社関係者のほか、伊那市の白鳥市長らが出席しました。第12工場は、ニッパツフレックスの敷地に新設し、伊那工場で生産している自動車用精密ばねの増産対応するものです。新工場は、延べ床面積は6,988平方メートルの2階建てで、完成は11月、稼働開始は2019年1月を予定しています。



鎌入れを行う茅本社長

### ニッパツ・メック、工場増築

ニッパツ・メック(以下メック)が長野県駒ヶ根市にある駒ヶ根工場の増築に向け、2017年5月29日、地鎮祭を行いました。メック駒ヶ根工場は、かねて生産スペースなどが手狭になっており、中長期的な業容の拡大も視野に入れて隣接した土地に増築することになりました。2018年に新棟が完成し、5月17日、竣工式を行いました。



完成したメックの新棟

## トピックス 当社のトップアスリートが活躍

当社が雇用するトップアスリートが、様々な大会や試合で活躍しました。

陸上競技では、宮坂楓選手(三段跳)が日本選手権2連覇、竜田夏苗選手(棒高跳)が全日本実業団で2位、平加有梨奈選手(走幅跳)が東日本実業団で5位入賞となり、それぞれ、国内・海外の多くの大会に出場し、好成績を収めました。女子サッカーでは、なでしこリーグ2部の「ニッパツ横浜FCシーガルズ」に加入した新人の平國瑞希選手が、2018年4月、当社に入社しました。大島瑞希選手とともに、チームの中心選手として活躍しており、1部昇格を目指しています。今後も、トップアスリートの活躍により、当社の知名度および企業イメージの向上とともに、グループ一体感の醸成に寄与するものと期待されます。



三段跳 宮坂楓(総務部)



棒高跳 竜田夏苗(人事部)



走幅跳 平加有梨奈(人事部)



ニッパツ横浜FCシーガルズ 大島瑞希(総務部)



ニッパツ横浜FCシーガルズ 平國瑞希(総務部)

※当社所属選手を「ニッパツアスリートサイト」で紹介しています。  
<https://nhkspg-athlete.com/>

## トピックス ニッパツグループの社会貢献活動

当社はグループをあげて社会貢献活動を積極的に推進しています。

### 横浜市大病院へ車いすを2台贈る【日発陸会】

当社の国内グループ会社で組織する日発陸会(以下陸会)が社会貢献活動の一環として、横浜事業所の隣にある公立大学法人横浜市立大学付属病院に車いすを寄贈しました。ニッパツグループ従業員から提供された古本の販売収益金をもとに、毎年、同病院に寄贈しているもので、今年で20回目になります。2018年6月21日、八代陸会会長(ニッパツ社長)が、相原病院長に車いす2台を贈呈しました。相原病院長からはお礼の言葉とともに感謝状をいただきました。  
※ 役職は寄贈当日で掲載しています



贈呈した車いすを前に、左から当社の玉村会長、八代陸会会長、相原病院長、同病院の二見理事長

### ニッパツ・ハーモニー、滋賀営業所を開所

障がい者の特例子会社であるニッパツ・ハーモニーが、2017年4月、滋賀営業所を開所し、新入社員3人を迎えて業務を開始しました。西日本では初の営業所となります。



新入社員3人を迎えた滋賀営業所入社式

# グローバル・グループネットワーク



従業員の家族イベントに招待し、パーティを楽しむ(広州日弘機電)



上海モーターショーで中国グループ会社メンバーが集結



ニッパツプロファイル

ニッパツプロファイル

## 海外グループ会社(35社)

### 北・中南米

#### NHKインターナショナル株式会社

**その他**  
主要業務：懸架ばねのR&Dおよびエンジニアリングサービス、HDD関連部品の販売支援

#### ニューメーサメタル株式会社

**懸架ばね**  
主要業務：スタビライザの製造販売

#### NHKオプアメリカサスペンションコンポーネンツ株式会社

**懸架ばね 精密部品**  
主要業務：コイルばね、トランクリッドトーションバー、トランスミッション用皿ばねの製造販売

#### NHKシーティングオプアメリカ株式会社

**自動車用シート**  
主要業務：自動車用シート、シート用フレームおよび内装機構部品の製造販売

#### NHKスプリングプレジジョンオプアメリカ株式会社

**精密部品**  
主要業務：自動車エンジン用バルブスプリング、AT用ばねなどの製造販売

#### トープラアメリカファスナー株式会社

**精密部品**  
主要業務：各種ねじの製造販売

#### ニッパツメキシコ株式会社

**懸架ばね 精密部品**  
主要業務：自動車用懸架ばね、モーターコアの製造販売

#### ラッシーニ-NHKアウトパス有限会社

**懸架ばね**  
主要業務：板ばね、コイルばねの製造販売

### アジア

**日本発条(泰国)有限会社** **懸架ばね 自動車用シート 精密部品 HDD関連部品**  
主要業務：自動車用懸架ばね、シート、内装品、精密ばねおよびHDD関連部品の製造販売

**日発精密(泰国)有限会社** **精密部品**  
主要業務：ブレーキディスクなどの製造販売

**オートランス(タイランド)株式会社** **その他**  
主要業務：自動車・二輪車部品の納入代行

**NHKマニファクチャリング(マレーシア)株式会社** **産業・生活関連**  
主要業務：プリント配線板の製造販売

**NHKスプリングフィリピン株式会社** **精密部品 HDD関連部品**  
主要業務：HDD部品の加工、外観検査および化成品(ウレタン、テープ等)の打ち抜き加工

**日発投資有限公司** **その他**  
主要業務：中国における投資対応、中国グループ会社の統括および管理支援、事業拡大支援など

**広州日正弾簧有限公司** **懸架ばね**  
主要業務：コイルばね、スタビライザの製造販売

**広州福恩凱汽配有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートおよびコンポーネントの開発・販売

**湖北日発汽车零部件有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**重慶日発汽车零部件有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車部品および関連部品設計、製造販売、アフターサービス

**重慶慶鈴日発座椅有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シート、内装品および自動車部品の製造販売

**鄭州日発汽车零部件有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**佛吉亞日発(襄陽)汽車座椅有限公司** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**広州日弘機電有限公司** **精密部品 HDD関連部品**  
主要業務：バルブスプリング、圧縮ばね、皿ばね、HDD関連部品の製造販売

**日發科技有限公司** **HDD関連部品**  
主要業務：HDD用サスペンションの製造販売

**日發電子科技(東莞)有限公司** **HDD関連部品**  
主要業務：HDD用サスペンションの製造販売

**日發電子股份有限公司** **精密部品**  
主要業務：マイクロコンタクト関連製品の販売

**友聯車材製造股份有限公司** **懸架ばね 自動車用シート**  
主要業務：板ばね、コイルばね、自動車用シート、内装品の製造販売

**日本発条インド株式会社** **懸架ばね**  
主要業務：コイルばね、スタビライザの製造販売

**NHKオートモーティブコンポーネンツインディア有限会社** **精密部品**  
主要業務：精密ばね製品の製造販売

**NHK F. クリシュナ インド オートモーティブ シーティング有限会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**日本発条・エフ・ケービーユー・オートモーティブ・シーティング株式会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**日本発条・ケービーユー・シーティング株式会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**インドネシアニッパツ株式会社** **精密部品**  
主要業務：チェーンテンショナの製造販売

**日本発条(欧州)株式会社** **その他**  
主要業務：欧州における事業管理および営業・技術サービスの提供

**NHKスプリングハンガリー有限会社** **懸架ばね**  
主要業務：コイルばね、スタビライザの製造販売

**イベリカ デ スペンシオネス有限会社** **懸架ばね**  
主要業務：コイルばね、スタビライザの製造販売

## 国内グループ会社(24社)

**ニッパツ(日発販売株式会社)** **その他**  
主要業務：自動車部品・用品、自動車用ばね、産業用機器・部品、精密ばね・同復合機能部品、ファスナー、資材、情報関連機器、加工関連部品、機材設備関連機器の販売および輸出入

**日発運輸株式会社** **その他**  
主要業務：貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫業、包装業、機械設備の据付業、海外輸出入取扱業務

**株式会社ニッパツサービス** **その他**  
主要業務：石油・石油製品・化学製品の販売、一般高圧ガスなどの販売、設備工事、ビル総合管理、警備業、損害・生命保険代理店業、不動産業、建設業、清掃業

**株式会社ジー・エル・ジー** **その他**  
主要業務：ゴルフ練習場運営

**ニッパツ機工株式会社** **懸架ばね 産業・生活関連**  
主要業務：自動車および車両関係用品の製造販売

**株式会社スミハツ** **懸架ばね 産業・生活関連**  
主要業務：板ばね、クリップバンド、コイルばね、バランス、車両用トーションバー、分岐器、ルールクリップ、合成まくらぎの製造販売

**株式会社ホリキリ** **懸架ばね**  
主要業務：各種ばねの製造販売

**ニッパツ九州株式会社** **懸架ばね**  
主要業務：自動車用巻ばね、スタビライザの製造販売

**東北日発株式会社** **懸架ばね 自動車用シート 精密部品**  
主要業務：コイルばね、精密ばね、線ばね、自動車用シートフレームの製造販売

**株式会社アイテス** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シート、内装品の製造販売

**フォルシア・ニッパツ株式会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの開発・販売

**フォルシア・ニッパツ九州株式会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シートの製造販売

**ニッパツ水島株式会社** **自動車用シート**  
主要業務：自動車用シート、内装品の製造

**株式会社シンダイ** **自動車用シート 産業・生活関連**  
主要業務：自動車用部品、家具用金属製部品、自動車用部品の製造用機械および治具の設計、製造販売

**ニッパツフレックス株式会社** **精密部品**  
主要業務：自動車用部品、一般産業機器の設計・製造販売

**アヤセ精密株式会社** **精密部品**  
主要業務：精密ばねの製造販売

**特殊発條興業株式会社** **精密部品**  
主要業務：ばね座金、スナップリング、クラッチ用プレート、薄板ばねなどの製造販売

**日発精密工業株式会社** **精密部品**  
主要業務：ねじ工具、自動車部品、情報処理機器部品、産業用精密部品の製造販売

**株式会社ニッパツパーキングシステムズ** **産業・生活関連**  
主要業務：機械式立体駐車装置全般の設計・製造販売・施工・賃貸借・メンテナンス・リニューアル、駐車場付帯設備の設計・製造販売

**ニッパツ・メック株式会社** **産業・生活関連**  
主要業務：マリン、工業用メカニカルリモートコントロールボックス・コントロールケーブル、電子リモートコントロールシステム、ステアリングシステム、フットペダルの製造販売

**日本シャフト株式会社** **産業・生活関連**  
主要業務：ゴルフシャフト、金属バットなどの製造販売

**株式会社トープラ** **精密部品**  
主要業務：自動車用ねじ、ボルトおよび一般ねじの製造販売

**横浜機工株式会社** **産業・生活関連**  
主要業務：各種照明器具の開発製造販売

**株式会社ニッパツ・ハーモニー** **その他**  
主要業務：建物内外の清掃業務および緑化業務、一般廃棄物の分別収集、製造補助作業

### アイコンの説明

<b>懸架ばね</b>	板ばね、コイルばね、スタビライザ、トーションバー、ペローズ、アクムレータ
<b>自動車用シート</b>	自動車用シート、内装部品
<b>精密部品</b>	バルブスプリング、マイクロコンタクトユニット、ロックピンジ、ねじ、ボルト
<b>HDD関連部品</b>	サスペンション、HDD用機構部品
<b>産業・生活関連</b>	ろう付製品、セラミック製品、配管支持装置、ポリウレタン製品、金属ベースプリント配線板、駐車装置、セキュリティ関連製品、スポーツ用品、照明器具、船舶機器部品、鉄道関連部品、建築関連製品
<b>その他</b>	R&D、地域統括および事業・管理支援、運送業、各種部品、機器の販売および輸出入、サービス業全般、ゴルフ練習場





## ニッパツグループのCSRの考え方

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、CSR活動を円滑に推進するため、グループで意思統一を図っています。CSR推進委員会では、ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメント関連、人権の尊重、社会貢献の各々諸問題を全社の課題ととらえ、企業の社会的責任の一環として取り組んでいます。

### CSR推進責任者メッセージ

## 持続的成長と企業価値向上を目指して



CSR推進責任者 代表取締役副社長 嘉戸 廣之

当社は、社訓と企業理念を経営方針の基本としており、「魅力ある企業集団の実現を通じて、豊かな社会の発展に貢献する」ことが使命であると考えております。

本業である、自動車、情報通信、産業・生活の各分野における「ものづくり」を通して、株主・投資家、お客様、取引先、従業員、地域社会をはじめとする当社を取り巻く幅広いステークホルダーの皆様との対話を通じ、その期待に応え、信頼される企業として、様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

健全な事業活動を継続するために、コーポレート・ガバナンス体制を強化し、中長期的な観点で企業価値を高めていくことを目指しています。あわせてコンプライアンスのさらなる周知徹底、実効性のあるリスクマネジメント体制の強化、グループ全体の意識の向上を図っております。また常に人権を尊重し、多様な人材の活躍を目指した取り組みを推進していきます。さらに、

企業活動において地球環境との共生、調和を図るための行動指針・行動計画を定め、グループとして地域・社会の環境保全に積極的に取り組んでいます。

2017年5月には社員行動指針を刷新し、私たちニッパツの役員・従業員はどのような行動が倫理的に奨励され、どのような行動が法規範上禁止されているのかを示しました。2018年度の経営方針には「徹底したコンプライアンスの推進」を掲げ、すべてのステークホルダーの皆様から信頼される企業であり続けるために企業倫理の重要性を認識し、継続的に法令順守の徹底に努めてまいります。当社グループ会社の拠点は、国内・海外の様々な地域におよんでおり、地域社会から世界への共生の輪が広がるよう、中長期的な経営戦略の視点で、グループをあげて、グローバルで社会課題の解決に取り組んでまいります。

# コーポレート・ガバナンス

健全な事業活動を継続するため、ガバナンス体制の整備を行っています。

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を実施することで、経営の健全性を維持するとともに、中長期的な観点で企業価値を高めていくことを目指しています。

そして、その実現に向けて、以下の5点を基本方針として掲げています。

1. 株主の権利およびその平等性を確保するとともに、適切な権利行使ができる環境の整備に努めます。
2. 株主、顧客、取引先、地域社会、従業員等、当社を取り巻くステークホルダーに対して企業としての責任を果たすことにより、良好な関係の維持に努めます。
3. 法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組めます。
4. 取締役会では、取締役各人の事業に精通した知見と経験に基づき付議事項を集中的に審議して経営の最高方針を決め、事業経営動向について監督するほか、付議事項から派生する経営課題に対しても、積極的に議論を行い、取締役会としての適切な役割・責務の遂行に努めます。
5. 株主とは建設的な対話に努め、また対話を通じて収集した株主の意見などは、経営陣・取締役へフィードバックすることで、情報の周知・共有に努めます。

## コーポレート・ガバナンス体制

意思決定機関として株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員体制を採用し、2018年6月27日時点で、取締役は7名（社外取締役2名を含む）となっています。なお、2015年度より社外取締役を選任し当社経営の意思決定の妥当性および当社経営に対する監督の有効性を確保しています。

を確保しています。

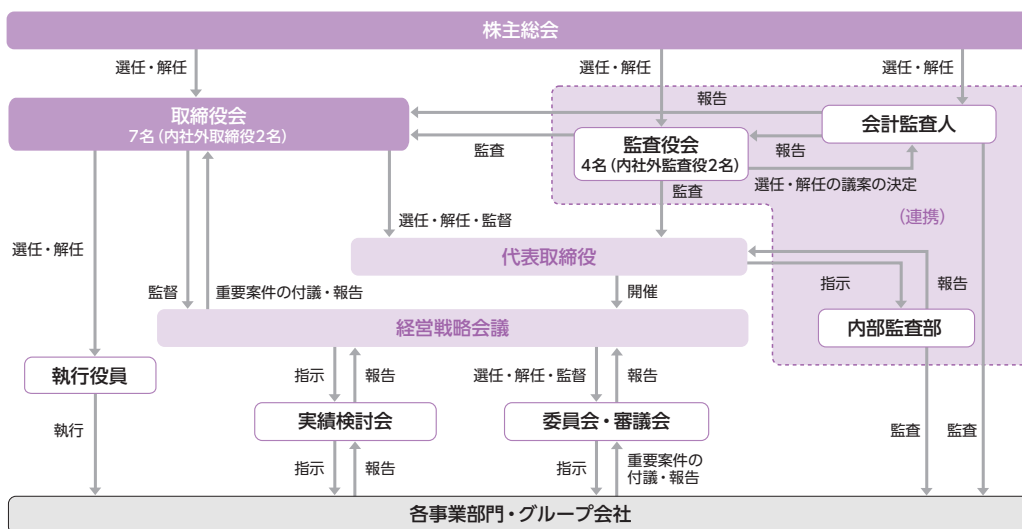
審議機関としては、経営戦略会議、各委員会があります。特に経営戦略会議は少数で意見交換ができるように、取締役、常勤監査役および各生産本部、事業本部の本部長で構成しています。監査機関として監査役会は、2018年6月27日現在で、4名の監査役のうち、2名の社外監査役が就任しています。

## 内部統制システムの基本方針

当社では、以下の項目を中心に「内部統制システムの基本方針」を定めています。

1. すべての役員、社員が法令および企業倫理を順守することを定めるとともに、体制を構築し、コンプライアンスを推進する。
2. 反社会的行為を行わず、暴力団などの反社会的勢力とは一切関係を持たない考え方を明らかにし、社員に対して教育、啓発活動を実施する。
3. グループ会社も含め、企業活動に関するリスクを洗い出し、その対応策について定めるとともに事前防止を推進する。
4. 一部のグループ会社も含め、中期経営計画で策定された重点施策の展開・チェック・修正を効率的に行うことを目的とする経営管理システムの導入。
5. グループ会社に取り締役および監査役を派遣することにより、グループ会社の経営状況を適時に把握し、不正または不適切な取引を防止できる体制をとる。
6. 監査役が、当社およびグループ会社の取締役会、経営戦略会議等に出席し、法定の事項、経営、業績に影響を及ぼす重要事項について遅滞なく報告を受ける体制の整備。
7. グループ会社も含めた代表取締役、会計監査人および内部監査部門は、監査役と、定期的また必要に応じて意見交換を行い、監査の実効性を確保する。

■ガバナンス体制図



※取締役、監査役の人数は2018年6月27日現在

# コンプライアンス

従業員一人ひとりがコンプライアンスに則って行動するよう努めています。

## コンプライアンスの取り組み

当社はコンプライアンスを、法令順守はもちろん、社会の様々な要求に誠実に応えることととらえ、経営の大きな柱の一つとしています。コンプライアンス経営実現のため、コンプライアンス最高責任者である社長のもと、推進責任者を企画管理本部CSR部長、指導責任者を各部門長、推進事務局を企画管理本部CSR部とする体制を構築し、推進を行っています。

また、当社は「社員行動指針」において、すべての役員、従業員が法令および企業倫理を順守することを定めるとともに、国内だけでなく海外においてもコンプライアンス意識の向上と徹底を図るため、独占禁止法順守、贈収賄防止などのトップメッセージをはじめ、国内・海外グループ会社を含めた従業員への各種研修を実施し、グローバルレベルでのコンプライアンス活動を推進しています。

合わせて、コンプライアンス違反の予防に役立つ情報として「コンプライアンス通信・事件簿」を定期的に配信し、職場におけるコンプライアンス意識の向上を図るとともに、毎年11月の「ニッパツ倫理強化月間」においてトップメッセージを発信し、ポスターの掲示や各種イベントを企画実施するなど、グループ全体のコンプライアンス啓発に努めています。



独占禁止法  
研修会を開催

なお当社および国内グループ会社において、社内および外部法律事務所にホットラインを設け、従業員が疑問に思った時に相談や内部通報を行うことができる仕組みを整えています。また、海外においては、北米・中国をはじめとした海外グループ会社に同様の制度導入を順次進めています。

### VOICE

CSR部  
向井 亮平



#### 従業員一人ひとりの コンプライアンス意識を継続的につくる

コンプライアンス経営の実現には、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識が不可欠です。CSR部では、業務内外を問わず、日常的に「どのような行為が違反になるのか」を意識してもらえよう、身近なテーマを題材とした「コンプライアンス通信・コンプライアンス事件簿」の定期配信や、社内報による情報発信、新入社員・管理職など階級別での研修や、営業職・技術職など職種別での研修のほか、新たにグループワーク形式の参加型研修を実施するなど、当社グループ従業員のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

また、毎年11月を「ニッパツ倫理強化月間」とし、外部講師を招いたセミナー開催や、コンプライアンスカードを配布するなど、様々な取り組みを通じ、グループ従業員に、よりコンプライアンスを身近に感じてもらえるような取り組みを行っています。グループ全体でのコンプライアンス意識のさらなる向上を目標に、今後も様々な形で継続的な取り組みを行っています。

# リスクマネジメント

リスク管理体制を整備するとともに、あらゆるリスクの対応に取り組んでいます。

## リスクマネジメント体制

企業の抱えるリスク(危機)は自然災害だけでなく、想定外のことが発生する可能性があります。当社では社会的責任を果たすためにも様々なリスクに対し、未然防止と被害を最小限にとどめるため、リスク管理規程を制定し、緊急時に的確に対応するための組織・ルールづくりなどのリスク管理体制を構築しています。従業員一人ひとりが日常からリスクに対して理解を深め、想定外のリスクが発生しても的確かつ迅速に対処し、早期に解決できるようさらなる改善を目指しています。

### リスク発生への対応

自然災害への対策としては、防災措置はもちろんのこと、BCP(事業継続計画)の策定やBCPにつなげるためのリスク発生直後の訓練も実施しています。

国内・海外で緊急事態が発生した場合には、リスク発生地区で迅速に対策本部を立ち上げ、本社に対策総本部を設置し、早期に事態の収拾を図ります。

## BCP(事業継続計画)

BCPについては、「ニッパツグループBCP基本方針」および「ニッパツグループBCPガイドライン」を国内・海外のニッパツグループ全社に配布し、BCM(事業継続マネジメント)体制の構築を進めています。

リスク発生時には、対策本部を招集し、対策本部長の指揮のもとに所管部門および関係部門が一体となって迅速な対応を行う体制をとっています。

2011年からは、国内グループ会社も参加し、大地震発生時の初動対応訓練および速やかに事業を復旧して継続するためのBCP訓練を実施しています。これらの訓練の反省に基づき、より実践に即した危機対応ができるようBCPや各種手順書などの改訂を行い、危機管理体制のステップアップを図っていきます。また、2015年からは海外グループ会社でも初動対応訓練を実施しています。



本社対策本部の  
初動対応訓練

### VOICE

CSR部 主任  
根木島 篤司



#### 実効性のある事業継続 マネジメント体制の構築

当社は、東日本大震災をはじめ、様々な自然災害、リスクを教訓として、想定外の事態を最小限にするためにBCPの改訂に取り組むとともに、マネジメント体制の構築を目指しています。

具体的には、設備が被害を受けた場合、取引先が被災した場合、従業員が被害を受けた場合などにおいて、いかに事業を継続していくかを、関係者全員で知恵を出し合い、対策を検討しています。また計画を策定するだけでなく、様々な訓練を実施することにより、全員の意識を向上させ、BCPの問題点を洗い出し、改善に努めています。

今後は各拠点ごとに、独自で訓練を構築できる体制を提案するとともに、海外グループ会社の様々なリスクに対するBCPの策定や訓練の実施にも取り組んでいきたいと思っています。

## 情報セキュリティの確保

当社およびグループ会社各社は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー」に基づき、その対策基準や実施手順を定め、確実に管理・運用を行うことにより、お客様や取引先との取引における情報や、従業員のマイナンバーを含む個人情報の流出防止など、情報資産の保護に努めています。

このポリシーは、当社およびグループ会社の役員、従業員、外部委託業者の従業員(派遣社員、アルバイトを含む)に適用されます。保有する情報資産の機密度や内容に応じて、重要度を評価、分類し、適切な管理を行っています。また、標的型攻撃やランサムウェアへの対策として通信ログの分析等技術的対策を適宜行い、機密情報漏えい、破壊、改ざん、不正利用を未然に防ぐ活動を行っています。



情報セキュリティ  
に関するeラー  
ニング教材を作成  
し、従業員への教  
育を通して意識の  
向上を図る

### VOICE

情報システム部 主査  
山上 元郎



#### グループ全体への定着を進める

情報セキュリティは、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からの信頼を確保するために必要不可欠であるだけでなく、安全・安心な社会生活を支えるための重要な基盤であると考えています。当社の情報セキュリティ管理は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー」に基づき進められています。具体的には、セキュリティツールによる技術的対策、規程類の整備などの組織的対策、eラーニングによる教育や標的型攻撃メール訓練などの人的対策、管理状況の監査を行い、継続的に改善することで情報セキュリティの確保とさらなる強化に取り組んでいます。

情報システム部では、IT統制、情報セキュリティ監査、ITリスクの評価と低減、あるべきITの健全性を維持するための活動を着実に実施し、海外を含むニッパツグループ全体へのITガバナンスの構築・定着を進めています。



## お客様

高品質の製品をお客様に提供するとともに、納期・コストの対応についても常にレベルアップを図り、「お客様満足度」のさらなる向上を目指しています。

### 品質保証への取り組み

当社は、国内・海外の環境変化に目を配り、世界トップ水準の品質確保とお客様満足度向上に努めています。

また、品質国際標準の認証取得を積極的に推進し、これに則った品質マネジメントシステムを運用しています。

#### 品質方針

世界トップ水準の品質提供により  
お客様満足度向上をグローバルで達成する

#### 重点施策

- ①原点に立ち返った工程保証度の再検証
- ②新規立上り及び4M変更品での品質・納入問題未然防止
- ③品質風土の醸成・不正防止
- ④再発防止活動のレベルアップ
- ⑤仕入先管理のレベルアップ

#### 具体的な取り組み

重点施策については、以下のように進めています。

##### 1. 原点に立ち返った工程保証度の再検証

- ① やりにくい作業、間違いやすい作業の見直し
- ② 不良品を造らない、流さないQAゲートの最適化

##### 2. 新規立上り及び4M変更品での品質・納入問題未然防止

- ① 節目管理は現地・現物・現認で実施
- ② 4M変化点管理の強化
- ③ 設計プロセスでの検定力強化

##### 3. 品質風土の醸成・不正防止

- ① トップ主導による品質風土づくり
- ② 不正を生まない職場環境づくり
- ③ 不正防止状況の定期確認

##### 4. 再発防止活動のレベルアップ

- ① 原因の本質追究力向上
- ② 横展開の強化
- ③ トップ主導による過去トラの定期点検

##### 5. 仕入先管理のレベルアップ

- ① 改善のスパイラルアップができる体制構築
- ② 仕入先の実力に合わせたQAゲートの最適化
- ③ 直納品/機能品納入仕入先総点検

### 品質国際標準の認証取得

当社は、1996年に厚木工場、品質の国際標準であるISO9001の認証を取得したのを皮切りに、全工場でISO9000シリーズの認証を取得しました。また、自動車関連製品を生産する工場については、さらに厳しい標準であるIATF16949の認証を取得しています。

国内グループ会社各社でも積極的に認証取得を推進しているほか、海外グループ会社でも、お客様や地域に合わせた品質国際標準の認証取得活動を展開しています。

 IATF16949: 2016認証取得 **24**工場  
ISO/TS16949認証取得 **12**工場  
(いずれもIATF16949: 2016への更新を予定)

[2018年9月現在]

### お客様からの評価

当社はお客様の期待に応えられるよう、常に品質・納期・コストなどの改善に取り組んでいます。その成果は、多くのお客様から表彰されるなど高い評価を得ています。



多くのお客様から表彰を受ける

## VOICE

三菱自動車工業株式会社  
調達コミュニケーション本部  
内装部品・アフターセールス調達部 マネージャー  
山本 悠也 さん



### グローバルな生産・供給体制に期待

当社は、ニッパツと自動車用のシート、懸架ばね、エンジン用精密ばねなどで取引をしています。私自身はシートの担当をしています。岡山県にある水島製作所向けのシートにおいては、現在すべての生産車両に対応している一方、海外ではタイ、インドネシア、フィリピンの当社生産拠点にシートを納入してもらっています。

ニッパツは、高い生産技術力をベースとした効率的なシート生産ラインの構築およびアセアン地域における現地生産体制に強みがあります。また、新型車に対する技術的な検討に真摯に取り組み、具体的な提案をしてくれる点も評価しています。

自動車業界は、大きな転換期を迎えるとともに当社の購買体制も大きく変化しようとしています。ニッパツには主要な部品メーカーとして、グローバルな生産・供給体制の構築と他社を凌駕する価格競争力の追求に期待します。

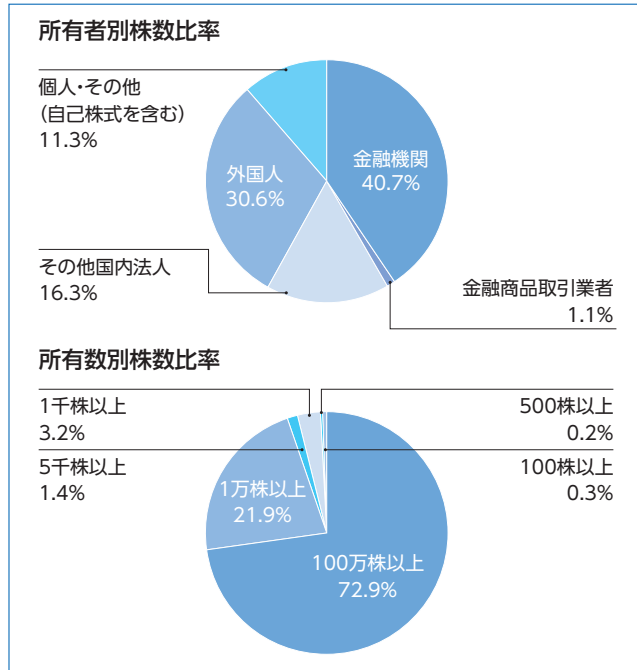
# 株主・投資家

株主・投資家の皆様から長期的にご支援いただくためには、会社の状況や財務に関する情報のタイムリーな開示が大切であると考え、その実施に努めています。

## 株主への対応と分布比率

株主の皆様からの問い合わせについては、総務部で対応いたします(株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行)。  
なお株主の分布状況は、次のグラフのような構成となっています。

### ■株主分布状況(2018年3月31日現在)



シートのカバリングに特化した工場を見学し、当社に対する理解を深めてもらいました。



ニッパツ九州の製品紹介コーナーを見学する参加者

**WEB 投資家情報ページのアドレス**  
<https://www.nhkspg.co.jp/ir/>

## 投資家向け情報の開示

当社は、中間決算および本決算発表後、アナリスト・機関投資家向けに決算説明会を実施しています。2017年度は、5月と11月の2回開催しました。今後も、アナリストや投資家への積極的な情報開示を推進していきます。

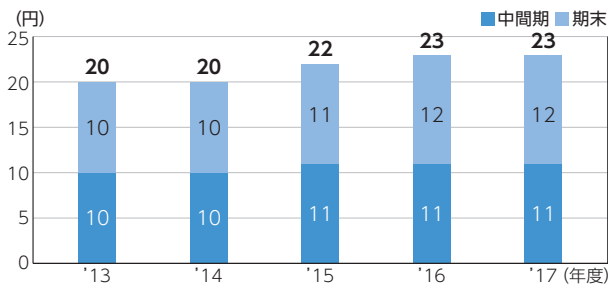


決算説明会を開催

## 2017年度の利益還元

2017年度の業績については、財務ハイライト2017(P8~11)に掲載のとおりです。当期の配当金につきましては、株主の皆様への長期安定的な配当の継続を重視し、1株当たり23円(年間)とさせていただきます。

### ■配当金の推移



## IR情報の発信

2018年4月、ニッパツ九州とフォルシア・ニッパツ九州で、証券アナリスト・機関投資家向け工場見学会を開催しました。参加者には、IoTを活用した懸架ばねの生産ならびに自動車用

## VOICE

モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社  
エグゼクティブ ディレクター  
垣内 真司 さん



### 金属加工や材料解析など高度な技術を評価

私は証券アナリストとして、ニッパツの財務諸表、企業戦略、中期経営計画などを分析して、投資家の方々へ分析内容や情報の提供を行っています。ニッパツは独立系の強みを生かし、幅広い自動車メーカーと取引し、顧客のニーズの変化を的確にとらえられとみています。また金属加工や材料解析などの高度な技術力も評価しており、コイルスプリング、シートフレームなどの軽量化と剛性向上を図ることで環境や安全面で自動車業界に大きく貢献していると思います。

電気自動車や自動運転の普及が将来加速すると予想され、モーターやバッテリーが搭載され、シートには快適性がより求められるなど構造的な変化が想定されます。ニッパツが有するコア技術を、これらの領域に生かしていけるかが注目されます。自動車メーカー、自動車部品メーカーには、これまでの延長線上ではない新たなチャレンジが重要になってくると考えます。

ニッパツが、最近行っているトップアスリートの支援はユニークな取り組みだと思います。アスリート採用は従業員の連帯意識の向上につながることを期待され、海因なき自動車業界の変化の中で勝ち抜いていく上で注目されます。

# 従業員

当社は「人を大切にする」という企業風土のもと、従業員を大切な財産と考え、「人財」の雇用と育成に取り組んでいます。多様な価値観を持った各人が個々の持ち味を生かして活躍できる企業であるよう、人財の多様性だけでなく、労働安全衛生、福利厚生などの充実を図っています。

## 人財の雇用と育成

### 雇用における基本的な考え方

当社は「常に新しい考え方と行動で成長する」ことを企業理念の中に掲げ、型にはまらず可能性に挑戦しチームワークで困難を乗り越える、意欲を持った人財を広く求めています。

#### 求める従業員像

- 「新しいことにも興味を持って果敢にチャレンジする」
- 「様々な方向から物事をみる」
- 「仲間の個性を認め合い、ともにゴールを目指す」

人財の多様性の面では、特例子会社を通じて障がい者雇用を一層推進しているほか、女性や外国籍従業員の採用には目標値を定めています。また、中途採用では、トップアスリートといった多様な分野で優れた能力を持つ人財を積極的に採用し、活躍を支援しています。

### 人財育成

当社の人財育成は、持続的成長のために、人財力、組織力の両面から質的向上を目指しています。

例えば、従業員一人ひとりが企業理念を意識し、行動に示すことを目的に、意識と行動の規範を明確に掲げています。これにより、一人ひとりが目指す人財像を具体化でき、年度ごとに能力開発目標を定め育成を実施しています。

各人が受講する研修制度には、階層別や職務・職能別の集合研修のほか、外国語・異文化研修などもあります。また、社外の研修も積極的に活用するほか、海外研修や通信教育などの選択肢を充実させ、自ら成長しようとする「個人」を「組織」の力で育成し、それらを「人事制度」でサポートする、三位一体の人財育成に会社全体で取り組んでいます。



人財のレベルアップに向けた様々な研修を実施

### 採用活動

採用活動は、当社独自の会社説明会を開催する一方、学校主催の説明会には人事部の採用担当者が積極的に出向いています。会社説明会では、若手従業員にリクレーターとして協力してもらい、学生とのフリートークの場を設け、実際に働いている従業員の生の声を聞いてもらうことにより、当社の企業風土や雰囲気をはじめ、就職後の会社生活をイメージしてもらえるような活動を行っています。また、就職情報サイトでの情報開示とともに、当社ホームページでは「採用情報ページ」の設置、新卒採用向けの駅貼りポスターなども展開しています。



会社説明会を開催



当社ホームページの採用情報ページ



学食トレイでPR

## VOICE

人事部  
主査  
谷岡 友美



### 働き方改革への取り組み

当社は、安全・安心で働きがいのある職場の実現に向け、業務の効率化や柔軟な勤務制度をはじめ、様々な角度から取り組みを行っています。私は、主に人事制度の新設や改定に従事していますが、従業員の多様性が広がっている中、2018年春には、働き方を改革する社内委員会「Smart Work Project」を立ち上げ、全社的な活動をスタートしています。新しいことにチャレンジする上で、会社として「変えてはいけないこと」「変えなければならないこと」をしっかりと見極めて取り組むことが重要ですが、当社が最も大切にしていることは社員の安全と心身の健康です。それを基軸に柔軟な働き方や新たな技術の取り込みにチャレンジし、私たち従業員が、以前よりも増していきいきと働くことができ、これからも当社が魅力ある企業として、豊かな社会の発展に貢献できる企業であり続けるために、人事の側面から働き方改革に取り組んでいきたいと思っています。

## 障がい者雇用

ニッパツグループは、障がいを持つ人と持たない人が、ともに調和しながら「可能性への挑戦」「社会人としての自立」「社会との共生」を目指しています。

当社は、2002年4月から「企業としての社会的責任と地域社会への貢献」を目的に、障がい者を雇用する特例子会社「ニッパツ・ハーモニー」を設立しました。また、2009年3月からはグループ会社であるニッパツ(日発販売)、日発運輸の2社を特例子会社のグループ適用会社として、障がい者雇用率向上を目指しています。

### 障がい者雇用率の推移

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
雇用率	2.03	2.14	2.10	2.28	2.34

2018年3月末現在、同社は神奈川県に3カ所、長野県に2カ所、滋賀県に1カ所、計6営業所を設け、67名の障がいを持つ従業員が元気に働いています。2017年度は地域の養護学校や法人などから43名を受け入れて実習したほか、様々な企業・学校・行政の関係者など472名の方々が見学に訪れました。



ニッパツ・ハーモニー従業員のダンボール組立作業

## 労働安全衛生と健康増進

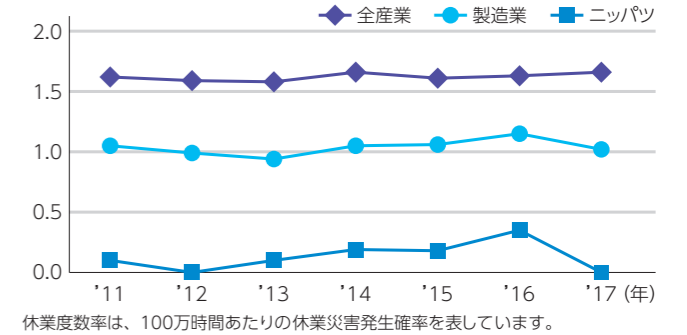
### 労働安全衛生

当社は、2000年度から労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入し、2003年度から全社展開しています。「ゼロ災害」を目標に労働災害の撲滅を推進するため、次のような取り組みを行っています。

- **トップ自らの行動力**：各事業所のトップが強力に安全衛生活動を推進しています。
- **リスクアセスメント**：職場の潜在的な危険性または有害性を見つけ出し、これを除去・低減する手法
- **危険予知活動**：危険に対する感受性を向上させ、労働災害の未然防止を図る活動
- **安全衛生教育**：危険性または有害性に関する知識を習得し、労働災害の未然防止を図る教育

労働災害の発生頻度を表す指標となる休業度数率は、近年の活動成果から全産業平均や製造業平均よりも下回っています。今後は、労働安全衛生マネジメントシステムのPDCAサイクルを適切に回し、安全衛生管理のさらなるレベルアップを図っていきます。

### 労働災害による休業度数率推移



休業度数率は、100万時間あたりの休業災害発生確率を表しています。

### 健康増進の取り組み

当社では、従業員の健康維持、増進を行うことは、持続的な企業価値の向上につながると考え、会社、従業員、健康管理スタッフの役割を明確にして健康施策を推進しています。健康増進を一層進めるために、2017年度より、最上位機関である「中央安全衛生協議会」の下部組織となる、「中央健康推進協議会」を設置し、副社長をトップとして、全社健康施策の方針や実施状況の確認や実施項目の検討などを行っています。これを受けて、各事業所では、健康推進委員や健康推進担当者を置き、様々な健康施策を進めています。

2018年度の健康増進達成目標として「適正体重：BMI25以上割合20%以下」「全事業所の血圧有所見率15%以下」を掲げ、従業員への活動量計配布による運動機会の増加、体組成計や血圧計設置による健康度の見える化、各事業所の食堂を利用した食育活動などを実施しています。血圧目標は2017年度に達成したため、2018年度目標を「全事業所の血圧有所見率13%以下」として健康推進活動を進めています。



体組成計や血圧計設置による健康度の見える化

メンタルヘルス対策では、ストレスチェックを活用した高ストレス職場へのサポートや高ストレス者への継続的な個別フォローに加え、2017年度より新任管理監督職研修の刷新、管理監督職へのeラーニング実施など、新たな取り組みを行っています。また2018年3月には、ニッパツグループ会社が健康経営を推進し、「働き方改革」の一環として従業員の心身の健康増進を図ることが重要と考え、グループ会社と健康保険組合が一体となって健康施策を進めるため、グループ各社の社長と連名で「ニッパツグループ健康宣言」を行いました。



## 福利厚生

### 育児介護と仕事の両立支援

従業員が育児や介護といったライフステージを迎えた際、安心して会社で働き続け、最大限に能力を発揮できるよう、当社では仕事と育児・介護の両立を支援するための諸制度を、公的制度を上回る水準で整備しています。

また、従業員の介護に対する不安や負担を軽減することを目的に、2012年度より国内・海外問わず介護について相談できるNPO法人と契約しました。

さらに2016～17年度の2カ年、全社で延べ17回介護セミナーを開催し、累計約440名が参加しました。

なお、介護や育児だけでなく、既存の休業補償制度と合わせ、さらに従業員の安心感を向上させるために、長期にわたる傷病治療による収入減少をサポートする「GLTD制度」(団体長期障害所得補償保険)も2018年度より導入しています。



2018年2月に横浜事業所で実施したセミナー

### GLTD制度を導入

当社は、2018年度よりGLTD制度を導入しました。この制度は、病気やケガで長期にわたって働けない時に、主に生活費を補償するものです。従業員が安心して働ける環境づくりを、福利厚生の面から推進していきます。



各事業所で説明会を実施。従業員に制度の内容について理解を深めてもらう

### 健康見える化プログラム「歩数イベント」実施

「健康見える化プログラム」の一環として、従業員が、楽しみながら自発的に取り組める「歩数イベント」を定期的実施しています。

これは、活動量計でカウントした歩数で、バーチャルコースを歩くというもので、今回は観光しながら進めていく沖縄編と称して、2018年4月から6月に開催された歩数イベントには、全従業員の2割に相当する約900名が参加しました。

各工場別に順位を競ったり、入賞者には景品をプレゼントしたり、

イベントを盛り上げる工夫もしました。そのほかにも、歩行や体組成測定で「ポイント」が付与されるイベントも実施しています。健康推進していくことで、医療費抑制効果も期待でき、また「昨日何歩あるいた?」「今、何位?」など、従業員間のコミュニケーション活性化にも役立っています。



順位の話で盛り上がる従業員

### 女性のための健康セミナー実施

働く女性たちが「いきいきと働き続ける」ためのサポートとして「女性の健康セミナー」を実施しました。このセミナーは、女性特有の病気や特性について理解を深めることを目的としたものです。参加者は、講義のほか、乳がん触診モデルを触ったり、骨の健康度測定を行ったりしながら、自身の健康管理について理解を深めました。



骨の健康度測定を行っている様子

### 「ニッパツスポーツフェスタ2017」開催

2017年10月に横浜文化体育館で、従業員とその家族向けの運動会「ニッパツスポーツフェスタ2017」を開催しました。前回より規模を拡大し、神奈川県下の大会として横浜、厚木、伊勢原の各工場から約800人の従業員と家族が集まりました。参加者は玉入れ、綱引き、リレーなどに大いに盛り上がり、仕事を離れてコミュニケーションを図ることができました。



社内コミュニケーション活性化を目的に、「スポーツフェスタ」を開催

# 取引先

購入品調達にあたっての基本方針を制定するとともに、自社ガイドラインに基づくグリーン調達を推進しています。

## 調達基本方針

当社は購入品調達にあたって「相互信頼に基づく長期的パートナーシップの構築」「公正かつオープンな調達」「法規順守と機密保持」という3つの基本方針を制定しています。

### 購入品調達の基本方針

- 相互信頼に基づく長期的パートナーシップの構築  
相互の努力と公正なお取引を通じて、ベストパートナーとしての長期的な信頼関係を構築し、お互いが発展することを目指しています。
- 公正かつオープンな調達  
当社は、国籍、規模、系列等を問わず、オープンな参入機会を提供し、品質、価格、納期、サービス、技術力、開発力を総合的に勘案してお取引先を選定しています。
- 法規順守と機密保持  
調達活動においては、関連する法規と社会規範を順守しています。また、お取引先を通じ知りえた機密情報は、ご承諾なしには第三者に開示いたしません。

## CSR調達ガイドライン

最近の社会動向として、企業不祥事、経済危機にともなう雇用・労働問題の顕在化や地球環境問題などを契機に、企業の社会的責任(CSR)に対する取り組みの強化が期待されています。その中で、取引先の皆様にも当社のCSR活動についてご理解いただき、相互信頼のもとに、当社だけでなくサプライチェーン全体でCSRを果たすよう努めていきたいと考えており、その活動の一環として「CSR調達ガイドライン」を制定しました。

## グリーン調達

当社は、購入品調達の基本方針に基づき「グリーン調達ガイドライン」を設定し、環境に配慮した企業からの環境負荷の少ない製品の調達に努めています。取引先の皆様との連携によって、製品の設計・生産・廃棄に至るすべての段階を通して環境負荷物質の管理を推進するとともに、廃棄物を含めて環境負荷の削減を図っています。

化学物質のサプライチェーン連絡および海外の法令対応がますます重要になってきたことから、2016年3月に内容を全面刷新しました。

## ニッパツグループ・パートナーズミーティング

当社グループは、毎年1回、取引先の代表を招き「ニッパツグループ・パートナーズミーティング」を開催しています。当社から、年度方針および取り組むべき課題などを説明し、取引先各社に一層のパートナーシップ強化への理解と協力を求めています。また、購買本部より、当社を取り巻く経営環境と購買方針の基本的な考え方について説明するとともに、技術本部より、品質方針と目標および各生産本部・事業本部の品質への取り組みについて説明し、さらなる品質向上への協力を呼び掛けています。



取引先各社との関係強化に向けて開催するニッパツグループ・パートナーズミーティング

## VOICE

住友電工スチールワイヤー株式会社  
代表取締役社長  
佐野 裕一 さん



### 海外現地生産への対応に期待

当社は、特殊金属線製品の総合メーカーとして、土木建築分野から自動車、エレクトロニクス、IT関連まで幅広い分野に製品を納めており、ニッパツには、自動車用精密ばね向けにオイルテンパー線を採用してもらっています。自動車産業の軽量化・多機能化・グローバル化に対応すべく、世界トップクラスの品質・提案力・開発力で社会に貢献するということを会社のミッションに掲げ、コスト低減につながる加工性改善に寄与し、当社の伊丹、北海道、インドネシアの3拠点からニッパツグループ拠点にタイムリーに製品を納入しています。

ニッパツの調達基本方針にある「相互信頼に基づく長期的パートナーシップの構築」という考えは、住友グループの「**萬事入精**」「**信用確実**」「**不趨浮利**」といった住友事業精神に基づく公正な事業活動を行う理念とも通ずるところがあり、取引先と共に事業を発展させるパートナーとしてとらえ、従業員の皆様にその考えが浸透していることは大変よい点だと思います。

グローバルでの自動車需要は、今後もますます伸長すると想定され、ニッパツグループの海外現地生産への対応、非日系領域でのシェア拡大に期待しています。自動車の電動化対応で、エンジンはモーターに取ってかわり、関連企業の大きな経営課題となっていますので、環境変化をいち早く察知し、新製品・新用途開発に共に取り組んでいきます。



# 地域社会

当社およびグループ会社の拠点は、国内・海外の様々な地域に広がっており、各事業所がそれぞれの地域に根ざした活動を展開しています。そして、地域社会から世界へと共生の輪がさらに広がるよう、グループ総力をあげて取り組んでいます。

## ニッパツの取り組み

### 「ニッパツ三ツ沢球技場」を軸とした活動

2008年から継続している「ニッパツ三ツ沢球技場」のネーミングライツ(施設命名権)は、2016年3月から5年間の契約を更新し11年目を迎えました。ネーミングライツの特典である無償使用权の有効活用に取り組んでいます。



### ●ニッパツ・理工系大学サッカーリーグの開催

前途有望な学生の活動を支援するため、サッカーリーグを設立し、この活動を支援しています。学生のニーズに応え、フットサルなども取り入れた多彩かつユニークな活動を繰り広げています。

### ●社内およびグループ会社サッカー大会

社内およびグループの一体感醸成を目的にサッカー大会を開催しています。



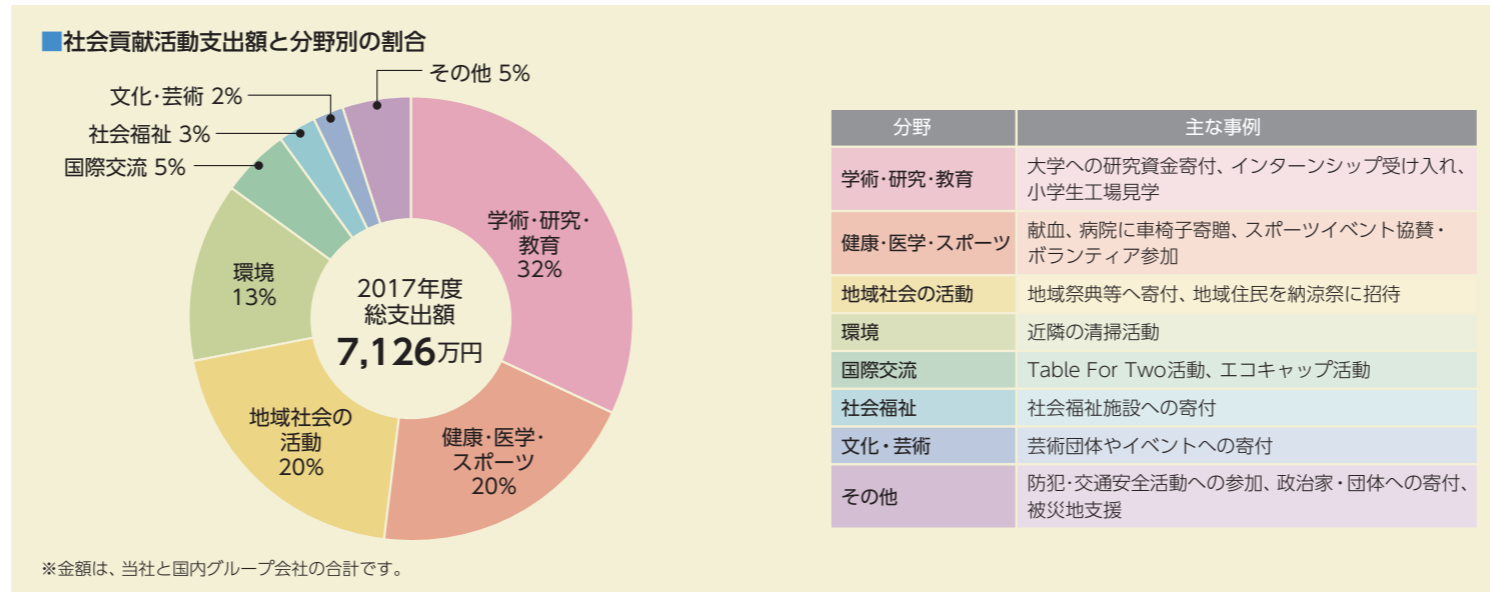
応援に来た従業員や家族を含めて120人余りが参加

### インターンシップの受け入れ

当社は、就業体験を行うインターンシップを積極的に受け入れています。2017年度は、高校生がばね横浜工場とシート横浜工場就業体験を行ったほか、大学生と大学院生のインターンシップも受け入れました。文系の学生は座学で当社の事業内容を学び、理系の学生は研究開発本部、ばね開発部、シート評価・実験部でそれぞれ就業体験を行いました。このほか、横浜市の中学と高校の教員が、シート横浜工場でのシートの製造工程を体験しました。また、豊田工場では高校生、伊那工場では中学生、高校生が就業体験を行いました。



インターンシップを積極的に受け入れ



### TFTで世界の子どもたちに給食を

2014年から「Table For Two」(略称TFT)を導入しています。TFTは、役員・従業員食堂で寄付金付きの食事を食べることで、世界の貧困地域に学校給食となる寄付金を届ける仕組みです。当社では、国内全9工場での実施、国内グループ会社への展開を実施し、2017年度は137,430食分(累計463,949食分)の学校給食を寄付することができました。

TFT寄付金 **137,430食分**

### 伊勢原工場が地域防災で表彰

産機事業本部のある伊勢原工場が、危険物の安全管理と、防災に関する取り組みにより、神奈川県危険物安全協議会連合会から表彰を受けました。長年にわたり、自衛消防隊の活動のほか、同協会の会員企業として尽力してきたことが評価されたものです。今後も、地域に根ざした企業として、地域防災活動に努めていきます。



### 地域のイベントなどへの協賛・協力

当社は、事業所のある地域で行われる各種のイベントに協賛、支援や協力を行っています。

### ●YOKOHAMAビーチスポーツフェスタに協賛

2018年8月、横浜市金沢区にある海の公園で、YOKOHAMAビーチスポーツフェスタが開催されました。当社がメイン

ポンサーとして協賛するのは、今年で2年目になります。今回は、従来のスポーツイベントに加え、趣向を凝らし、夏休みの子ども向けに環境プログラムも実施しました。「シーパラなぎさの観察会」では、近海の海洋生物の観察を通じて、生物の多様性や地球温暖化について学びました。「サンゴワークショップ」では、サンゴの死骸を使ったハンカチのたたき染めを行いました。様々なワークショップを通じて、子どもたちに、たくさんの生物が生息する海を身近に感じ、自分たちが海を守る必要性を理解してもらえました。



スポーツイベントに加え、子ども向け環境プログラムを実施

### ●「全日本学生フォーミュラ大会」に部品提供&出展

2017年9月5日から9日の5日間、静岡県小笠山総合運動公園(通称エコパ)で、自動車技術会主催の「全日本学生フォーミュラ大会」が開催されました。この大会は大学生や専門学校の学生が、自作したクルマで競うもので当社も協賛しています。審査は、車検をはじめ、コストやデザインなどの静的審査、アクセラレーションやオートクロスなどの動的審査のほか、騒音・排ガスなどがあり、学生のサークル活動主体とはいえ本格的なものです。当社は、30を超える大学からダンパー用ばねの提供依頼があり、社会貢献活動の一環として無償でばねを提供しています。精密開発部の若手技術者が学生と仕様のやり取りを行い、主に伊那工場が依頼部品を製作しています。今年度、部品提

供した大学の中から複数の大学が上位に入り、当社もその一翼を担うことができました。当社は今後も各大学への部品提供およびこの大会の協賛を継続していきます。



学生が製作するフォーミュラカーに部品を提供

### ●天竜川水系環境ピクニックに参加

2017年5月20日、長野県テクノ財団伊那テクノバレー地域センターリサイクルシステム研究会ほか主催の第24回天竜川水系環境ピクニックが開催され、当社の伊那、DDS駒ヶ根、産機駒ヶ根の各工場およびグループ会社のニッパツ・メックと日本シャフトの従業員とその家族200人余りが参加しました。天竜川の河川敷や遊歩道を清掃しました。毎年、継続して参加していますが、今後も地球環境保全への意識をより高めながら、自然を守る活動を進めていきます。



天竜川水系の環境美化に取り組み参加者

また、知的障がい者を支援するスペシャルオリンピックス日本・神奈川への体育館の貸与や、自動販売機の設置、学習教材への当社製品の写真・資料の提供なども行っています。このほか当社は事業所ごとに、行政や地域の団体と連携を図りながら、様々なイベントなどに参画しています。



体育館スペースの提供(スペシャルオリンピックス日本・神奈川)



横浜市の三ツ沢公園で花壇や通路の雑草取りなど美化活動ボランティアを実施

## 当社アスリートの取り組み

### 「YNUS&ニッパツ 陸上跳躍教室」を開催

2018年1月21日に横浜国立大学グラウンドで、NPO法人 YNUスポーツアカデミー※ (Yokohama National University Sports Academy) と当社が共同で跳躍教室を開催しました。昨年に引き続き2回目となります。当日は、当社アスリート従業員の宮坂楓(総務部)と平加有梨奈、竜田夏苗(ともに人事部)が指導役として参加し、神奈川県下の中学、高校の陸上部の生徒や顧問の先生など135名に跳躍の基礎や身体の使い方の指導を行いました。参加者は、普段のクラブ活動では教わることのできない内容をこの機会に吸収しようと、真剣に練習に取り組んでいました。

※横浜国立大学の協力支援を得て、地域の人びとを対象にした各種スポーツ普及・振興事業を実施している



神奈川県下から集まった参加者

### 当社主催のジュニアサッカー教室を開催

2018年7月29日、「ニッパツ・朝日新聞ジュニアサッカー教室」を開催しました。元日本代表の北澤豪氏らをコーチに招くとともに、女子サッカーなでしこリーグのニッパツ横浜FCシーガルズ所属の平國瑞希(総務部)もサポートに加わりました。子どもたちはプロが使用する球技場をところ狭しと走り回り、熱心に北澤氏らの指導を受け、思い出に残る夏の一日を過ごしました。



北澤豪氏らの指導を受け、熱心にボールを追いかける子どもたち

## グループ会社の取り組み

### 日発投資が広東外語外資大学とインターンシップ協定調印

2017年11月14日、日発投資と広州ニッパンが広東外語外資大学とインターンシップ協定調印式を広東外語外資大学で行い、日発投資の董事長である当社の嘉戸副社長と広州ニッパンの浅野総経理が出席しました。広東外語外資大学とは2013年10月に協定を締結して以来、4年にわたって日発投資と広州ニッパンで実習生を受け入れており、そのうちの2名が卒業後、両社それぞれに1名ずつ入社し、活躍しています。今回の協定は、日発投資と広州ニッパンでの実習に加えて、日本の本社での実習も可能になりました。日本企業や日本の文化をより深く体験できる機会を提供するものであり、社会貢献活動の一つとなりました。



握手を交わす嘉戸副社長(右)、浅野総経理(左)と広東外語外資大学の焦副校長

### 中学生の職業体験学習受け入れと地域納涼祭【ジー・エル・ジー】

川崎市でゴルフ練習場を運営するジー・エル・ジーが、地元の川崎市立日吉中学校の生徒の職業体験学習を受け入れました。生徒たちは、フロントでの接客、打席のメンテナンスなどを交代で体験しました。また、夏にはサマーフェスティバルを開催し、地域住民や従業員による模擬店、ダンスなどのステージ発表、大抽選会などが行われ、大変盛り上がりしました。



フロントでの接客業務を体験する中学生たち



「事業活動とライフサイクルフロー」「ISO14001への対応」「環境会計」「環境負荷物質の管理と削減」については、今年度より【環境データ集】へ移行し、ホームページに掲載しています。 <https://www.nhkspg.co.jp/csr/env/index.html>

## 環境ボランティアプラン

広範な地球環境問題に取り組むため、「地球環境行動指針」と「地球環境行動計画」を定め、1993年5月に「環境ボランティアプラン」として公表しました。ニッパツグループでは、これに基づく「環境活動方針」を年度ごとに策定しています。

### 地球環境行動指針

当社グループの企業理念を実現するために、企業活動の中で地球環境との共生、調和を図ることを表明しています。

#### 地球環境行動指針

1. 製品の設計・生産・廃棄に至る全ての段階を通して環境保全に積極的に取り組みます。
  - ① 資源の有効利用の可能性を追求し、省資源・リサイクルに徹底して取り組みます。
  - ② 省エネルギーの目標を売上高エネルギー原単位で年率1%以上の向上におき、省エネルギーを推進します。
  - ③ 生産活動においてゼロエミッションをめざし、廃棄物削減と省資源活動を推進します。
2. 地球環境問題に対する技術開発を推進し、環境保全に貢献します。
3. ニッパツグループとして環境問題に取り組むと共に、社会・地域の環境保全に積極的に取り組みます。

### 地球環境行動計画

地球環境行動指針に基づき、取り組むべき重点項目を抽出して具体的な目的・目標を設定し、その実現のための行動計画を定めています。

#### 重点取り組み内容

- CO<sub>2</sub>削減
- 廃棄物削減
- リサイクル向上
- 各種環境法令の順守
- 環境負荷物質の管理・削減
- 地域貢献・自然保護
- 省エネ製品利用、開発の推進
- 行政や客先、取引先との協調

#### 地球環境行動計画

1. 推進体制
  - ① 地球環境対策委員会を設置し、グループ全体の環境保全を推進
  - ② CO<sub>2</sub>削減推進会議と廃棄物削減推進会議を設置し、社会要請に対応
2. 個別課題への取り組み
  - ① 省エネルギーおよびCO<sub>2</sub>削減
  - ② 循環型社会への取り組み
  - ③ グローバルでのグリーン調達
  - ④ 環境負荷を考慮した製品設計・技術開発
  - ⑤ 有害化学物質の削減
  - ⑥ 環境事故の防止
  - ⑦ 物流の合理化
  - ⑧ 環境マネジメントシステムの確実な運用とレベルアップ
  - ⑨ 水使用管理の見直し 等
3. 広報・社会活動等  
企業の社会的責任(CSR)を認識し、広く地域社会・一般社会から共感を得られる環境保全活動を全社的に展開します。
4. 海外における活動  
環境保全の施策に積極的に取り組み、当該国の環境基準を順守することはもとより、社会的・経済的状況に配慮した技術移転を行い、環境保全に努めます。

### 環境活動方針

毎年策定する「環境活動方針」に基づき、グループ・グローバルの視点で地球環境問題に取り組んでいます。2018年度は、CO<sub>2</sub>原単位年率1%以上削減の自主目標を継続して達成するために、前年に続き省エネルギーの新規施策検討と、その実施および横展開を行います。廃棄物管理では、国内ゼロエミッション活動の継続と、有価物化による排出量の抑制を推進します。また海外拠点の再資源化率向上を継続します。各種環境負荷物質の管理や客先対応、環境施設の保全・更新および環境法令対応も計画的に行っていきます。

#### 2018年度環境活動方針

1. グローバル環境経営の推進
  - ① CO<sub>2</sub>削減活動の継続と新規施策の検討および実施
  - ② ゼロエミッション\*、廃棄物削減の維持
  - ③ 環境負荷物質管理の推進
2. グループ環境事故の発生「ゼロ」の維持
  - ① 環境管理の維持・向上と、リスク管理の徹底
  - ② 環境法令順守の維持とISO改訂対応
  - ③ 環境設備の運用維持と保全

\*グループ内のゼロエミッションの定義：再資源化率99.0%以上、サーマルリサイクルも再資源化とみなす

# 環境保全推進体制

環境ボランティアプランを実行・推進するため、地球環境対策委員会を中心とした組織体制で、PDCAサイクルに沿った継続的活動を行っています。

## 組織体制

「地球環境対策委員会」では、ニッパツグループ内の環境活動全般を一元的に審議し、地球環境行動計画を策定・遂行します。下部組織として、「CO<sub>2</sub>削減推進会議」「廃棄物削減推進会議」の2部会を設置しています。また、「関連会社環境連絡会」を設け、ニッパツグループとして、グローバルな環境保全活動をより積極的に推進する体制としています。

### 環境保全推進体制図



### ゼロエミッションへの取り組み

2003年に横浜事業所でゼロエミッションを達成するとともに、その後活動を広げて、2004年には全工場でゼロエミッションを達成しました。さらに、2010年にはニッパツ社内での再資源化率100%を達成するなど、ステップアップを続けました。

国内グループ会社においてもゼロエミッションを達成し、海外グループ会社では、2009年から再資源化率を向上する取り組みを行い、現在も継続しています。

2010年以降再資源化率 **100%**達成

**VOICE**

技術本部  
安全環境部 主査  
**米澤 隆**

**ISO14001 (2015年版)への更新による  
各種環境対応の推進**

当社は、1996年のISO14001制定以来、各工場での認証取得を進め、現在は国内各工場と製造系の国内グループ会社および主要な海外グループ会社で、第三者認証を取得しています。2015年9月には、ISO14001の大規模改訂があり、2018年9月までに2015年版への更新作業を終了しました。今回の改訂により、CSRに関する対応や各種リスク管理、環境パフォーマンスの向上などが、新たにISO14001の要求事項に追加され、積極的な対応が求められています。今後はCO<sub>2</sub>排出量や廃棄物の削減に加え、水資源の有効利用や生物多様性対応(森林保全など)の推進を視野に入れて、ISO14001の活用を進めていきます。

# 環境監査と省エネルギー診断

環境マニュアルに沿った的確な管理を実施するとともに、環境パフォーマンスを向上するために環境監査と省エネルギー診断を実施しています。

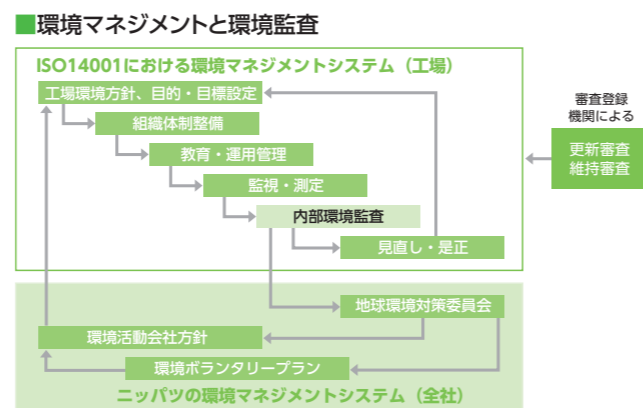
## ISO14001と環境監査

ニッパツグループでは環境監査を実施し、グループ各社の環境マネジメントシステムがISO14001に従って適切に運用されているかをチェックするとともに、環境関連の法令の順守、環境パフォーマンスの向上、改善課題の抽出と管理能力のレベルアップを図っています。

### 環境監査

環境監査において監査を行うメンバーは、専門教育の修了者が担当します。2017年度はグループ各工場でのISO14001の内部環境監査を実施するとともに、ニッパツ本社主催の環境マネジメント自主監査(チェックシートによる確認)を行い、システムの適切な運用によるパフォーマンス向上の確認を行いました。監査の結果は工場長やグループ会社の社長に報告し、速やかな

改善と是正を図っています。さらに、これらの監査結果は、地球環境対策委員会にも報告し、必要に応じて環境活動方針および環境ボランティアプランに反映しています。



## 外部審査

外部審査では、環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合し、運用されているかを外部の審査登録機関が審査します。原則的に毎年行う維持審査と、3年に1度行う更新審査があります。

2017年度は全11工場外部審査が行われ、8工場ISO14001(2015年版)への維持審査を、3工場更新審査を受審しました。その結果、各工場とも環境マネジメントシステムが適切に運用され、汚染の予防と継続的な環境改善活動が実施されているという判定を得ています。

### 2017年度外部審査実施

**8**工場(維持審査)、**3**工場(更新審査)

## VOICE



精密ばね生産本部  
厚木工場  
総務課課長  
**山野上 元**

### さらなる環境管理の向上に努める

精密ばね生産本部厚木工場は、神奈川県愛甲郡愛川町の内陸工業団地内にあります。当工場は薄板ばね製品、精密プレス品、線ばねなどを生産しています。廃棄物管理では、ごみの分別を徹底し、有価引き取りを増やすことで廃棄物の削減を進めています。省エネルギー活動では、植物由来の燃料を使用したエンジンコンプレッサを稼働させ、真夏の消費電力を契約電力以下にするとともに、CO<sub>2</sub>の発生を抑えています。また、ISO14001(2015年版)準拠の工場内部監査を2018年8月に行い、10月に更新審査を行うことで、環境管理の向上に努めます。地域貢献活動としては5月27日および10月20日に愛川町のクリーンキャンペーンに参加しています。

# 環境教育

すべての従業員が、環境に対する知識と高い意識を持ちながら日常業務にあたる企業を目指し、様々な環境教育を行っています。

## 環境教育

環境保全活動を推進するためには、従業員一人ひとりの環境意識の向上が重要です。当社グループは、社内教育制度の充実を図り、各種環境教育、内部環境監査員の養成および各種公的な資格取得の促進を行い、啓発活動を展開しています。当社では、従業員全員を対象とした階層別教育と、環境に関わる業務担当者を対象とした専門教育を行っています。階層別教育は、人事教育体系の中で、昇進の機会ごとに繰り返し行っています。また専門教育は、新たにその任に就いた時に行う新任時研修と、繰り返し行うスキルアップ研修があります。

なお、グループ会社に対しては、国内環境関連法令の抄録を2014年度から定期的に配布し、情報の共有を図っています。

### 環境教育の内容

階層別教育		
対象者	教育内容	
新入社員研修	地球環境問題、環境マネジメントシステム、環境法令等要求事項とニッパツグループの取り組み内容	
新任主任研修		
新任係長研修		
新任基幹職研修		
専門教育		
対象者	教育内容	
内部環境監査員(ISO改訂対応)	養成教育	内部環境監査員養成講座
	スキルアップ研修	環境主任監査員講習
海外赴任者(駐在員)	環境マネジメントシステム、海外環境法令、ニッパツグループの環境要求事項	

### 環境関連の資格取得者数 (2018年6月現在)

資格	分類	取得者数	
公害防止管理者	大気	1種	7
		その他	29
	水質	1種	8
		その他	25
		騒音	40
環境マネジメントシステム審査員	審査員補	振動	34
		ダイオキシン類	1
	1種	審査員補	1
		粉じん	5
作業環境測定士	2種	特化物	3
		金属	1
環境計量士	濃度関係	有機溶剤	3
		濃度関係	5
特別管理産業廃棄物管理責任者		3	
エネルギー管理士		49	
エネルギー管理員		34	
		11	

### 環境関連資格取得者数

**259**名  
(重複取得者を含む)

# ニッパツの生産現場での取り組み

節電と省エネルギーを推進するとともに、エネルギーの可視化(見える化)を進め、電力監視などによるエネルギーマネジメントを行っています。また、リサイクルによるゼロエミッション活動を継続しています。

## 省エネルギー設備

### 太陽エネルギーの活用

太陽光発電設備は、2008年DDS駒ヶ根工場、2009年横浜事業所に続き、2012年群馬工場に設置しました。再生可能エネルギーである太陽光を積極的に活用し、省エネルギーとCO<sub>2</sub>削減を進めています。



DDS駒ヶ根工場  
(20kW)  
2008年稼働開始

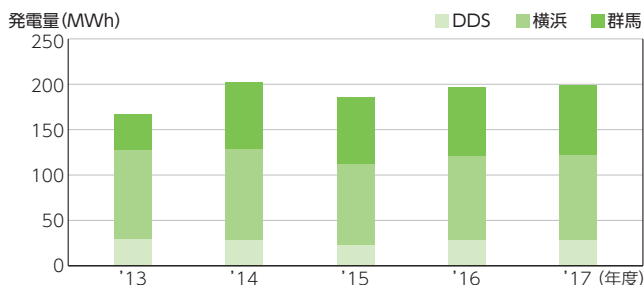


横浜事業所  
(100kW)  
2009年稼働開始

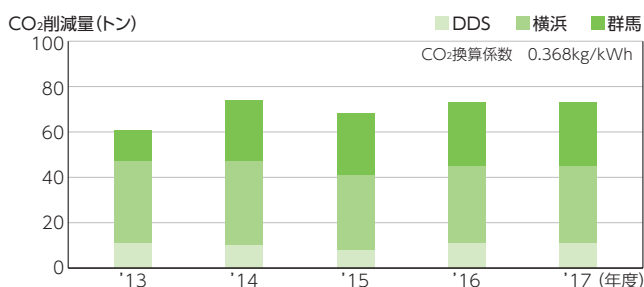


群馬工場  
(56kW)  
2012年稼働開始

### ■ニッパツの太陽光発電実績



※2013年度は、制御装置不具合のため発電量が低下(復旧済み)



## ゼロエミッション活動

循環型社会の実現のために、各事業所にリサイクルセンターや環境道場を設置し、廃棄物の分別徹底による再資源化の推進や、排出量の削減に継続的に取り組んでいます。

### 廃プラスチックや生ごみの再資源化、有価物化

軟質プラスチック類は、圧縮梱包機を用いてできるだけコンパクトに保管・運搬して、適切な廃棄物処理業者で再資源化を行います。また高品位なものは有価物として処理し、プラスチック原料や高カロリー燃料に再生します。生ごみ類は、家畜の飼料に再利用したり、生ごみ処理機による発酵分解処理を行っています。

### 廃棄物処理業者および有価物引き取り業者の現地確認

ゼロエミッション活動の確実な実施のため、廃棄物が処理業者で契約どおり処理されていることを各工場で定期的に確認するとともに、有価物の引き取り業者が契約どおり処理していることを、委託前に確認しています。



リサイクルセンター外観



リサイクルセンターの分別状況



廃棄物処理業者現地確認



廃棄物処理業者現地確認

# ニッパツの2017年度の目標と実績

生産活動における省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量削減、廃棄物再資源化、環境負荷物質削減において達成目標を具体的に定め、計画的な取り組みを行っています。

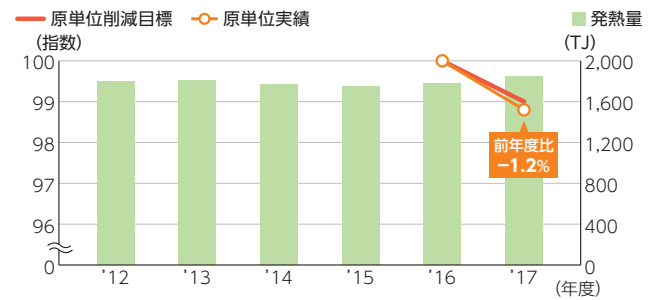
## 省エネルギー

当社は、以前から地球環境保全を意識して省エネルギー活動に取り組んできました。1990年代より、当時の地球環境対策委員会の下部組織である省エネルギー分科会で討議を重ねるとともに、現在はCO<sub>2</sub>削減推進会議で活発な意見交換を行い、省エネルギー活動を継続的に推進しています。2017年度のエネルギー原単位は、前年度比1.2%削減しました。

目標		
売上高エネルギー原単位、年率1%削減 (2016年度基準) (省エネルギー法「工場又は事業場におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準」による)		
2017年度目標	2017年度実績	評価
原単位目標値* <b>99.0</b>	原単位指数 <b>98.8</b>	

\*原単位目標値：2016年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

### 売上高エネルギー原単位指数の目標値と実績推移



\*2016年度の原単位指数を100とする

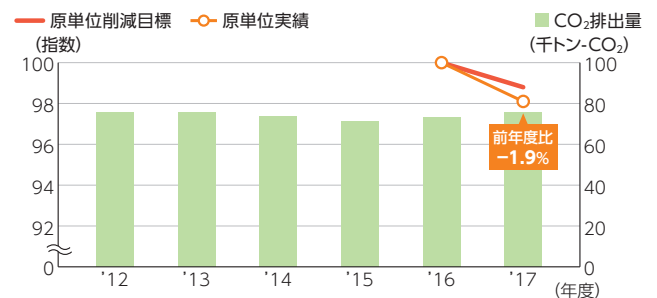
## CO<sub>2</sub>排出量削減

当社は、2008年よりCO<sub>2</sub>削減推進会議を設置し、国内関連会社と連携したCO<sub>2</sub>削減活動に取り組んでいます。グループ全体でCO<sub>2</sub>排出量の具体的な削減目標を掲げ、地球温暖化防止に取り組んでいます。2017年度のCO<sub>2</sub>排出量原単位は前年度比1.9%削減し、年度目標を達成しました。

目標		
売上高CO <sub>2</sub> 原単位、年率1%削減(2016年度基準) (自主目標による)		
2017年度目標	2017年度実績	評価
原単位目標値* <b>99.0</b>	原単位指数 <b>98.1</b>	

\*原単位目標値：2016年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

### CO<sub>2</sub>排出量原単位指数の目標値と実績推移



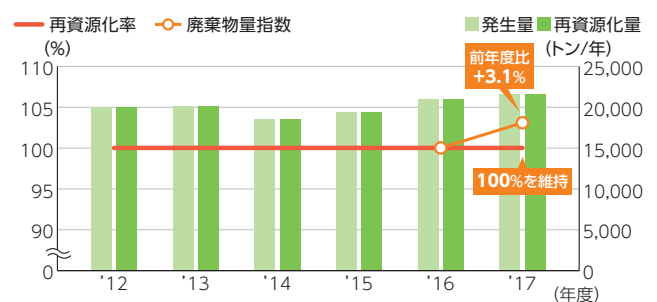
\*2016年度の原単位指数を100とする

## 廃棄物再資源化

当社は、ゼロエミッション達成を目標に廃棄物の埋立処分量削減に取り組み、2002年度末に横浜事業所で達成しました。2003年度から、これを全社的な取り組みとし、2005年度からは国内グループ会社に広げて推進しています。2010年度以降は再資源化率100%を維持しています。なお、廃棄物量は、汚泥、薬品処理や一部有価物の廃棄物化により前年度より増加しましたが、今後は生産活動の改善や廃棄物処理の見直しにより改善を図ります。

目標			
全社ゼロエミッション維持 (2004年度末以降再資源化率99%以上を達成済)			
2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
再資源化率 <b>99%</b> 以上の継続	再資源化率 <b>100%</b> (99.95%以上)		再資源化率 <b>99%</b> 以上の継続

### 廃棄物再資源化と廃棄物量指数の実績推移



\*2016年度の廃棄物量指数を100とする

# グループ会社の取り組み

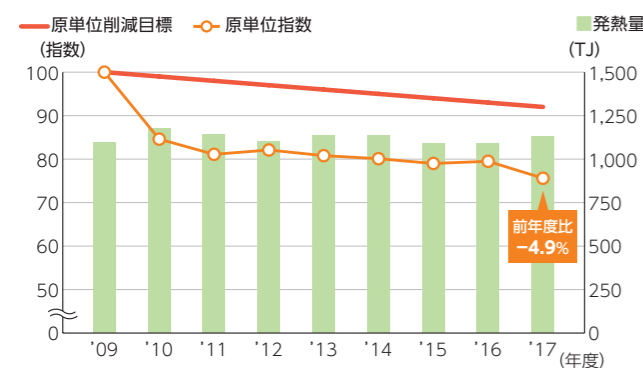
当社はグループをあげて環境保全活動を進めています。それぞれ環境負荷低減のための活動を行っています。

## 国内グループ会社

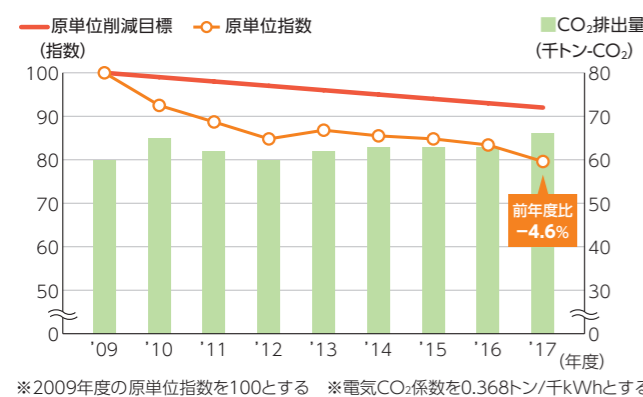
### 省エネルギー活動

2009年度を基準に、売上高エネルギー原単位で年率1%削減を目標とし、当社と連携した省エネルギー活動を実施しています。生産合理化など省エネルギーを進めるとともに、炉の断熱などCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。その結果、2017年度のCO<sub>2</sub>排出量原単位は前年より4.6%減少し、目標を達成しました。また発熱量原単位も前年度より減少しました。

### 売上高エネルギー原単位指数の目標値と実績推移



### CO<sub>2</sub>排出量原単位指数の目標値と実績推移



### 循環型社会への取り組み

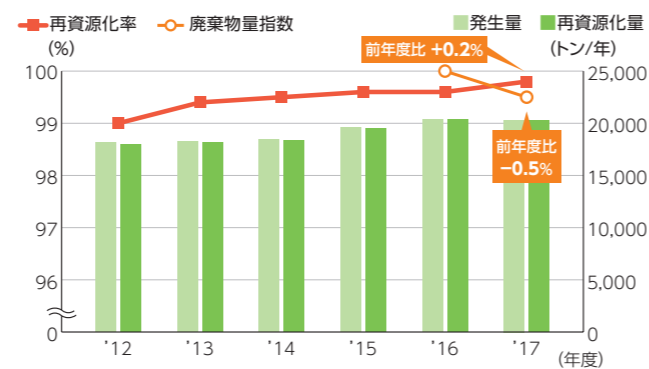
2017年度の国内グループ会社の廃棄物発生量は年間20,316トンでした。その再資源化量は20,277トンで、2017年度は、排水処理汚泥の削減により、再資源化率が99.6%から99.8%に向上しました。またニッパツ同様に廃棄物量削減の取り組みも行っています。廃棄物の有価物化や、生産活動の改善により、前年度より0.5%削減しました。今後も各種活動を継続します。

国内グループ会社では2007年度から2009年度末までに再資源化率99%以上を目指し、ゼロエミッション活動を進めることで目標を達成しました。

再資源化活動の例として、国内グループ会社のニッパツサービスおよびニッパツ・ハーモニーでは、ニッパツ横浜事業所内の

各種廃棄物の分別回収を行い、リサイクルおよび廃棄物削減を推進しています。

### 廃棄物再資源化と廃棄物量指数の実績推移



ニッパツサービスによる、廃棄物の分別秤量

## VOICE

株式会社トープラ  
安全環境部 環境課 主査  
恩地 和行

### 環境と調和した事業活動に努める

当社は、ねじの専門メーカーとして、神奈川、静岡、大阪に生産拠点を置き、小ねじ、タッピンねじから高強度ボルトまで幅広くねじの開発・製造・販売を行っています。環境活動は「自然豊かな地球を後世に引き継ぐ」という方針のもと、ISO14001:2015に適合した環境マネジメントシステムで推進しています。

CO<sub>2</sub>排出削減では、熱処理設備自体の省エネルギー改善や運転時の温度切替ロスの低減、ものづくり改善活動による各工程での原単位向上、照明のLED化推進などに取り組んでいます。排出物低減・再資源化では、メッキ汚泥の排出重量削減、製品の歩留り改善活動、廃棄物の分別精度向上などを実施しています。また軽量化やEV対応など環境配慮型製品の開発にも取り組んでいます。

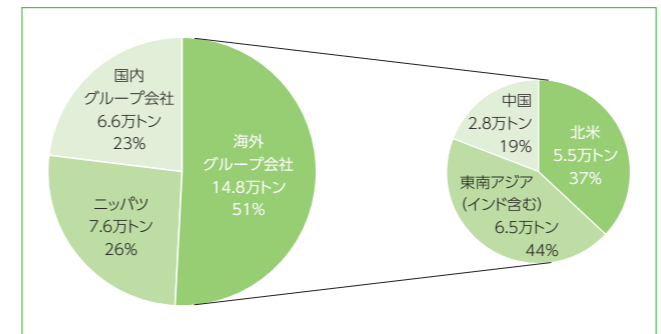
今後も環境との調和を考えた事業活動に努め、地球環境負荷の低減に寄与していきます。

## 海外グループ会社

### CO<sub>2</sub>排出状況

海外グループ会社の2017年度CO<sub>2</sub>排出量はグループ全体の51%を占め、昨年と同じ割合でした。内訳ですが、北米が0.2万トンの減少、東南アジアが0.7万トン、中国が0.1万トンの増加でした。今後は工場の省エネルギー診断や省エネ事例の展開により、CO<sub>2</sub>排出の削減活動を進めていきます。

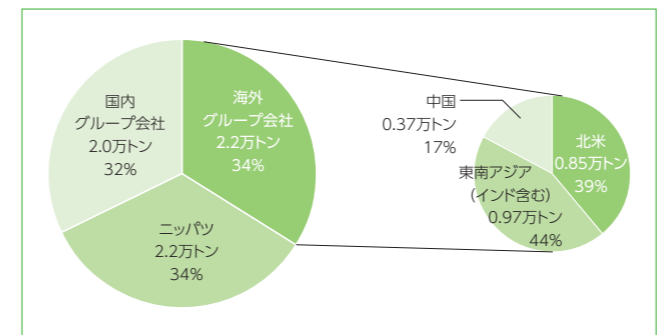
### 2017年度グループセグメント別CO<sub>2</sub>排出量



### 廃棄物発生状況

国内廃棄物量原単位は増加傾向ですが、海外グループ会社の廃棄物量も同様に増加傾向にあります。2017年度の海外廃棄物比率はグループ全体の34%で、昨年より2ポイント増加しました。特に東南アジアと中国で廃棄物が増加傾向のため、今後は各地のリサイクル活動により、廃棄物の再資源化を推進していきます。

### 2017年度グループセグメント別廃棄物排出量

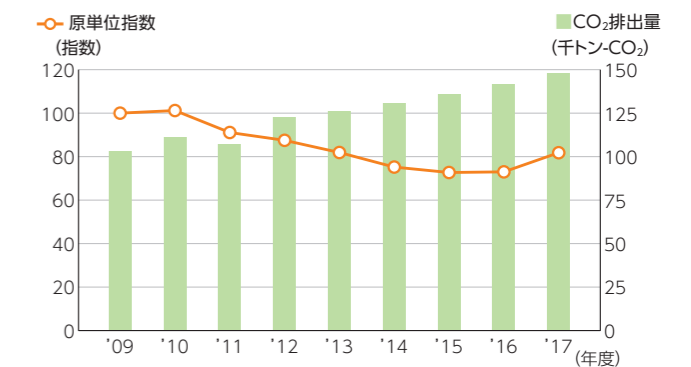


### 省エネルギー活動

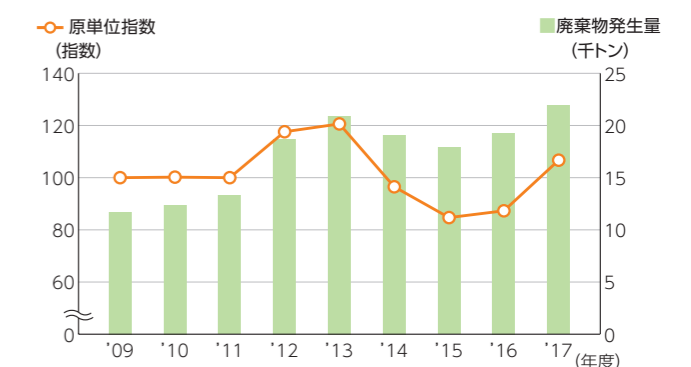
生産時のエネルギー消費量を抑制するため、各社で省エネルギー活動を実施しています。北米各社や東南アジア各社では、ニッパツの省エネルギー事例を基に、改善活動を計画的に推進しています。

また、他の地域でも日本と同様の改善活動を展開することで、海外グループ全体の省エネルギー活動を推進しています。

### 海外グループ会社(製造系10社)のCO<sub>2</sub>排出量実績推移



### 海外グループ会社(製造系10社)の廃棄物発生量実績推移



## 編集方針

ニッパツは、グループを含めた社会性、環境保全、財務の1年間の活動をまとめ、その概要を報告する「ニッパツレポート」を2008年度から発行しています。11年目となるこの「ニッパツレポート2018」では、これまでのページ構成を見直し、読者の皆様にわかりやすい誌面づくりに努めました。

なお、最新のCSR情報およびより詳しい株主・投資家情報はホームページに掲載しておりますので、合わせてご覧ください。

CSR情報 <https://www.nhkspg.co.jp/csr/>

株主・投資家情報 <https://www.nhkspg.co.jp/ir/>

## 報告対象範囲

この報告書は、基本的にニッパツグループの事業活動を対象としています。グループ全体を対象とする活動報告は「ニッパツグループ」、ニッパツ単体を対象とする活動報告は「当社」または「ニッパツ」、グループ会社を対象とする活動報告は各会社名とすることで、報告の正確性に努めました。

## 報告対象期間

原則として2017年4月から2018年3月の事業活動を対象としています。なお、発行が11月のため、大きな動きについては2018年4月以降の活動も掲載しています。

## 報告対象読者

この報告書は、株主・投資家、お客様、取引先、従業員とその家族、各事業所周辺の地域の方々などを対象としています。

# NHKニッパツ

日本発条株式会社

問い合わせ先：日本発条株式会社 企画管理本部 総務部広報グループ

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10

TEL：045-786-7513 FAX：045-786-7598

ホームページ：<https://www.nhkspg.co.jp/>

Email：[b2200@nhkspg.co.jp](mailto:b2200@nhkspg.co.jp)

